

第1章	安心して子どもを産み、育てることのできるまち……………	58
第2章	持続可能な社会の創り手を育成する学校教育が充実しているまち……	68
第3章	専門的な教育の機会が確保され、高等教育機関等との連携や交流が進むまち……	80
第4章	未来に向けて、ともに学び、地域で行動する人がはぐくまれるまち……	84
第5章	スポーツを通して生きがいに満ち、活気にあふれるまち……………	94
第6章	文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち……………	100
第7章	一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち……………	106

# 評価・検証シート【施策】

令和 3 年度

【所管部局】保健福祉部

施策名	(第1編第1章) 安心して子どもを産み、育てることのできるまち
-----	------------------------------------

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)

市民が安心して子どもを産むことができ、子育てに幸せや楽しさを実感して暮らせるまちを目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
子育てをしやすいつ思っている市民の割合	目標値 (%)	65.0	65.0	65.0	65.0	現状値を踏まえ65.0%以上を目指す。 [現状値:55.3%(H30年度実績)]
	実績値 (%)	53.5	52.9			
	達成度 (%)	82.3	81.4			

## 2. 実行(Do)→ 構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check &amp; Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- ・子育て世代包括支援センター（はぐはぐ<sup>\*\*\*\*\*</sup>smufa）事業では、妊娠期から子育て期にわたり、関係機関と連携しながら、専門職が子育て家庭に寄り添った相談・支援を行うことで、切れ目ない支援を推進しました。特にコロナ禍であり、孤立感や育児不安等も大きいことから、感染拡大防止に努めながら、積極的な支援を行いました。
- ・R3年4月からは特定不妊治療に係る治療費の助成事業に取り組み、少子化対策の促進、及び経済的負担の軽減を図りました。
- ・学童保育所（クラブ）については、新型コロナの影響もあり利用希望総数は減少しているものの、複数の校区で待機児童が発生しています。待機児童の数は前年度と比較し減少しましたが、未だ解消には至っていません。
- ・保育所等の施設整備補助事業（対象事業所：保育所、認定こども園）においては、1施設に対して補助を行いました。
- ・保育士等人材バンク事業は周知等に注力した結果、就職決定者が増加しました。
- ・R3年度も新型コロナ感染防止策を行いながら事業を実施しましたが、実施できなかった事業や、やむを得ず内容や規模等を変更して実施した事業もあります。

(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)

- ・子育ての負担感・不安感の軽減や子育て家庭の経済的負担の軽減、仕事と家庭の両立支援などに引き続き取り組み、安心して子どもを産み、育てられる環境づくりを進めます。
- ・子育て支援の取組みについて、様々な機会や手段を活用し周知を行うとともに、関係機関と連携しながら個々の状況に応じた相談・支援の充実を図ります。
- ・R2年度に策定した「学童保育所（クラブ）待機児童ゼロに向けたパッケージ」に基づく取組みを進め、学童保育所（クラブ）の待機児童の解消や預かり時間の延長の実現に向け、道筋をつけていきます。
- ・保育士等人材バンク事業を継続して行い、コロナ禍で数年間実施できなかった保育士体験等を通じて、潜在保育士等の掘り起こしをし、施設の人材不足の解消に繋げていきます。

(保健福祉部長 中村 珠美)

## 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R3 目標 R3 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 結婚や子育ての希望実現に向けた支援							
1	おおむた縁結び支援事業	子ども育成課	イベント参加者数	人	240 54	遅れ	継続
2	若者のライフデザイン形成支援事業	子ども育成課	セミナー等の参加者数	人	100 54	やや遅れ	継続
[視点2] 母と子どもの健康支援							
3	【重点】子育て世代包括支援センター事業	子ども家庭課	ハイリスク妊婦への支援プラン作成割合	%	100 100	順調	継続
4	【重点】特定不妊治療費助成事業	子ども家庭課	特定不妊治療費助成件数	件	70 35	やや遅れ	継続
5	妊婦健康診査事業	子ども家庭課	健康診査平均受診回数	回	12.4 13.1	順調	継続
6	妊婦歯科健康診査事業	子ども家庭課	歯科健康診査受診率	%	68.0 84.6	順調	継続
7	子ども医療費助成事業	子ども家庭課	子ども医療費受給1人当たりの平均助成額	円	24,000 23,206	順調	継続
[視点3] 地域における多様な子育て支援							
8	地域子育て支援拠点事業	子ども育成課	つどいの広場登録数	組	750 377	やや遅れ	継続
9	ファミリー・サポート・センター事業	子ども育成課	利用希望者が利用できた割合	%	100 99.8	順調	継続
10	子育て短期支援事業	子ども育成課	利用申請中利用できた人の割合	%	100 0	遅れ	改善
11	保育所、幼稚園等における保護者負担軽減	子ども育成課	軽減の実施	-	実施 実施	順調	継続
[視点4] 仕事と家庭が両立できる環境づくり							
12	【重点】放課後児童健全育成事業	子ども育成課	入所できた児童の割合	%	100 99.3	やや遅れ	改善
13	病児・病後児保育事業	子ども育成課	新規登録者数	人	120 118	順調	継続
14	保育所等施設整備費補助事業	子ども育成課	整備数	園	1 1	順調	継続
15	休日保育事業	子ども育成課	利用希望者の受入率	%	100 100	順調	継続
16	教育・保育施設管理及び運営事業	子ども育成課	入所できた児童の割合	%	100 100	順調	継続
17	保育士等人材バンク事業	子ども育成課	就職決定者数	人	10 9	順調	継続
[視点5] 様々な家庭への子育て支援の充実							
18	児童家庭相談事業	子ども家庭課	相談に対する延べ対応件数	件	8,235 8,982	順調	充実
19	(再掲) 子育て世代包括支援センター事業	子ども家庭課	ハイリスク妊婦への支援プラン作成割合	%	100 100	順調	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

1	事業名	おおむた縁結び支援事業	決算額	200
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R元年度から官民連携で取り組み始めた「love おおむた」プロジェクトにより、民間団体が実施する婚活イベントを年4回、及び福岡県と市の共催のセミナーを年1回、開催を予定していましたが、新型コロナの感染拡大防止のため婚活イベントを年1回、セミナーを年1回の開催となりました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縁結び支援事業は、独身者が結婚したいという思いの醸成を図るとともに、希望の結婚像・ライフスタイルにあった相手を探せるようサポートや出会いの場の創出を行うことが目的となっています。このため、本市や民間団体等が取り組む事業に関心を持ち、参加してもらうことが課題です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの取組みを検証し、婚活イベント等の再検討を行います。</li> <li>・関係団体等と情報の共有や情報発信を行い、広く参加者が集まるよう取り組みます。</li> </ul>		

2	事業名	若者のライフデザイン形成支援事業	決算額	203
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・婚活イベントの開催に併せて、参加者を対象に作法や会話術等に関するセミナーやこれからのライフステージを踏まえての結婚・出産・子育て等に関するライフデザインセミナーを開催しました。</li> <li>・また、市民協働部との共催による子育てセミナーを開催しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代が、自ら希望する結婚・出産・子育て等について、自身のライフデザインを描くことに関心を持つことが必要です。それには、意識の醸成を行うためのセミナー等の開催やそのセミナーに参加してもらうことが課題です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで実施している取組みと併せて、意識の醸成を図るためのセミナー等の開催について、他部局とも連携しながら、取り組みます。</li> </ul>		

3	事業名	【重点】子育て世代包括支援センター事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	-----------------------------------

4	事業名	【重点】特定不妊治療費助成事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	-------------------------------

5	事業名	妊婦健康診査事業	決算額	59,322
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診することが望ましいとされる妊婦一人あたり14回分の妊婦健康診査（福岡県内統一の検査項目）の公費負担を行いました。成果指標である平均受診回数は、委託料及び補助金の支払件数を当該年度の妊娠届出者数で除して算出しています。</li> <li>・特に支援を必要とする妊婦に対しては、妊婦と胎児の健康管理を行うため、継続した状況把握と健康診査結果を活用した電話や訪問による保健指導や助言等を行い、安心して出産できるよう支援しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理意識を高め、妊娠の週数に応じた必要な健康診査を受診できるように、母子健康手帳交付時に、対象者に応じた保健指導を行う必要があります。</li> <li>・健康診査の受診中断等を把握し、必要な支援を行うなどの介入が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して、健康診査14回分の公費負担を行います。R4年度は、検査項目に超音波検査を1回分追加します。</li> <li>・医療機関等の関係機関との連携を密にし、対象者に応じた支援を行い、妊婦と胎児の健康管理を行います。</li> </ul>		

## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

6	事業名	妊婦歯科健康診査事業	決算額	1,448
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団での母子健康手帳交付時(2回/月)に、歯科医師による歯科健康診査及び歯科衛生士による歯科保健指導を行い、歯と口の健康に対する意識の向上を図りました。</li> <li>・個別での母子健康手帳交付者に対しては、受診券を交付し、受診勧奨を行いました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期は胎児の歯を含む口腔が形成される時期で、将来の子どもの口腔環境作りに大きな影響を与え、妊婦の歯周疾患は早産や低体重児出産のリスクが高いため、健診や保健指導を通して啓発していく必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康への意識の高まりがみられる妊娠中に、歯科健診及び保健指導を行い、歯科保健に対する知識を高め歯科口腔保健の大切さを啓発することにより、妊婦自身だけでなく、これから生まれてくる子どもの歯と口の健康づくりを進めます</li> </ul>		

7	事業名	子ども医療費助成事業	決算額	265,873
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生までの入院、通院の助成を継続して行いました(中学生の県助成差額は独自助成)。</li> <li>・制度案内チラシを窓口で配布し、医療証送付時にも同封して周知を図りました。</li> <li>・感染症予防に関するポスターとチラシを作成し、教育・保育施設へ配布しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も子どもの疾病を未然に予防するための取組みについて考えていく必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民及び関係機関への制度周知を引き続き行いながら、子ども医療費助成対象者への医療証発行を適正に行い、安心して産み育てられる環境を整えます。</li> <li>・制度周知と併せて疾病予防の啓発及び事業等を行うことにより、子どもの健康を支援するとともに、医療費の増加を抑制します。</li> </ul>		

8	事業名	地域子育て支援拠点事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人に委託し、適切な運営により円滑に事業が実施できました。</li> <li>・新型コロナ感染拡大防止のため、延べ70日の臨時休所や開所日であっても利用者制限などを行っていたことが影響し、登録者数は目標値を大きく下回りましたが、昨年度の実績とほぼ同数を維持出来ました。</li> <li>・愛情ねっと等を活用した周知を行うとともに、乳幼児を持つ転入者に対して健診案内時につどいの広場への案内を行いました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染症の拡大防止及び3歳未満の児童を対象としているため利用者の安全に配慮するとともに、保護者へ向けての講座等の充実が必要です。</li> <li>・子育て世帯の孤立化を防ぐため、子育て相談等の支援の提供が引き続き必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安全に配慮し、子育ての負担感の減少に資するような集いの場を提供します。</li> <li>・毎年度実施している利用者アンケート結果等のニーズを踏まえた講座や事業を実施します。</li> <li>・新型コロナ感染拡大防止のために臨時休所している場合であっても、電話等を用いた相談業務を継続し子育ての孤立化を防ぎます。</li> </ul>		

9	事業名	ファミリー・サポート・センター事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人に委託して、適切な運営により事故もなく安全な事業の実施ができました。</li> <li>・コロナ禍にあっても、感染防止を図ることで継続した事業の実施ができたこともあり、利用希望者が利用できた割合は、99.8%とほぼ目標どおりの高い数値となりました。</li> <li>・R3年度の利用活動件数は、1,483件と昨年度(1,071件)より増加しています。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童(特に乳児)を預かることから、協力会員(児童の預かりを行う会員)のさらなる資質の向上が必要です。</li> <li>・引き続き協力会員を増やすことが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力会員のさらなる資質の向上のため、定期的な研修を実施します。</li> <li>・さまざまな機会を捉え事業の周知に努めることにより、さらなる会員の増加を目指します。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

10	事業名	子育て短期支援事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託している社会福祉法人では事業を実施できる体制を整えていましたが、新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言を受けての事業休止、その後の施設（乳児院・児童福祉施設）での感染防止を目的とした事業休止などにより十分に事業を実施できませんでした。</li> <li>このような状況により、R3年度の利用状況は登録数7組、利用者数（申請者数）0人です。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>預かりの場が乳児院・児童福祉施設内であることから、新型コロナの施設内感染防止のため徹底した防止策を図る必要があるため、コロナ禍にあっては十分な事業実施が難しい状況です。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍にあって、十分に事業を実施できるよう委託事業者と協議を続けます。</li> <li>宿泊を伴う一定期間の児童の預かりを行うことから、児童の安全を十分に担保できる要件を踏まえ、現在の委託事業者に加え新たな委託事業者の確保に向けて関係機関と協議します。</li> </ul>		

11	事業名	保育所、幼稚園等における保護者負担軽減	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市独自の保育料軽減を継続して実施しています。</li> <li>低所得の多子世帯やひとり親世帯等の保護者負担の軽減を実施しています。</li> <li>国施策の幼児教育・保育の無償化に伴う業務を適切に実施しています。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育ての不安や負担の軽減につながる経済的負担の軽減の継続が求められています。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援充実に向けて、教育・保育の維持・向上に取り組みます。</li> <li>働きながら子育てできる環境づくりのため、施設の整備や定員増等、保育ニーズに応えることができるよう、取り組みます。</li> <li>今後も引き続き、市独自の保育料軽減に取り組みます。</li> </ul>		

12	事業名	【重点】放課後児童健全育成事業<6. 重点事業 参照>		
----	-----	-----------------------------	--	--

13	事業名	病児・病後児保育事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の学校法人に委託しており、医療機関との連携等の基で事故もなく安全な事業の実施ができました。また、コロナ禍にあって事業を休止せず実施できました。</li> <li>新規登録者数は118人（年度末時点）で目標値に近い数値となりました。</li> <li>月当たりの利用者数は平均約20人となり、希望する者はすべて利用ができました。</li> <li>事業の周知を図るため、新たに大型商業施設での掲示を行うなどの取組みを開始しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>病気の児童を預かることから、感染症対策を含む児童の安全確保が課題です。</li> <li>事業周知の拡充が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業者へ安全な事業実施について指導すると共に、指導医、協力医療機関との継続的な連携を促します。</li> <li>コロナ禍の中、受入時の体調確認の徹底を継続します。</li> <li>これまでの周知活動を継続するとともに、さらなる周知促進に取り組みます。</li> </ul>		

## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

14	事業名	保育所等施設整備費補助事業	決算額	192,190
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の安心・安全な環境確保のため、国の交付金等を活用し、認定こども園の施設整備補助を1施設に対し行いました。(2か年事業)</li> <li>・補助対象施設は、保育所、認定こども園です。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの保育所等の施設整備では、施設の老朽化が進む民間保育所に対して、整備を行ってきました。今後は、老朽化対策に限らず、保育所等の機能強化や待機児童の発生防止対策をさらに充実させるため、施設整備の方針等の整理が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備の方針等の整理を行い、老朽化対策に限らず、保育所等の機能強化や待機児童対策を充実させる観点から、引き続き、教育・保育施設の環境の向上が図られるよう取り組みます。</li> </ul>		

15	事業名	休日保育事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日曜日や祝日等に保護者の仕事等の理由により、家庭での保育が困難な児童に対して天領保育所内で休日保育を行っています。</li> <li>・R3年度においては、新型コロナ感染拡大による影響を受け、保護者が仕事等を休業したことから、家庭での保育が可能となり、休日保育の利用人数が減少しました。</li> <li>・利用希望者は100%受け入れることができました。利用登録者数は39人、延べ利用者数は156人でした。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全域の子どもが対象となるため、新型コロナの感染状況を確認しつつ、感染予防策を講じながら、休日保育を実施していく必要があります。</li> <li>・安心して児童を預けられる環境の充実のため、安定した保育体制の維持が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの感染状況を確認しつつ情報発信を行い、サービスが必要な家庭への支援を進めます。</li> <li>・希望者が利用したいときに必ず利用できるよう、安定した保育士の確保に取り組みます。</li> </ul>		

16	事業名	教育・保育施設管理及び運営事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立保育所を含む市内22園で、安心、安全な保育の提供及び継続的な施設の運営、管理を行いました。</li> <li>・待機児童は発生しませんでした。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所等との連携・調整を密に行うことが必要です。</li> <li>・全国的な保育士不足の状況の中、十分な保育の質・量を提供するためには、保育士の人材確保が重要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心、安全な保育環境の確保のため、運営等の支援を継続して実施します。</li> <li>・保育士の確保のため、保育士等人材バンク事業の充実を図ります。</li> </ul>		

17	事業名	保育士等人材バンク事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、保育士の仕事を体験する保育士体験イベントができませんでした。</li> <li>・R3年度は、市内の保育所等に9名就職することができました。(登録者R3・24名 R2・16名 R元・8名)</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者を増やすために、潜在的保育士等の掘り起しを行うことが必要です。</li> <li>・求人施設の登録数を増やすことも必要です。(施設数R3・15 R2・17 R元・21)</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動の回数を増やす等、市民等へのさらなる周知に取り組みます。</li> <li>・施設の登録を促すため、改めて施設へ周知し受け皿の拡充を図ります。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

18	事業名	児童家庭相談事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民等からの子育てに関する相談や児童虐待の通告等に対し、内容や状況に応じた適切な対応を行っています。相談内容は複雑化・深刻化・長期化しており、R3年度の相談件数は780件、相談に対する延べ対応件数は8,982件でした。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談に対応する専門職の確保と児童家庭相談システムを活用した効果的・効率的な業務運営、関係機関との更なる連携により、相談支援の充実を図る必要があります。</li> <li>・児童虐待に関する相談・通告窓口などについて、広く周知していく必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童家庭相談室に常勤の社会福祉士を配置し、体制の強化及び相談機能の拡充を行い、子ども家庭総合支援拠点事業として、児童福祉法第10条において規定される市区町村業務を適切にかつ拡充して遂行します。また、子どもの発達段階や家庭状況等に応じ、子育て世代包括支援センターと一体的に支援を実施します。</li> </ul>		

19	事業名	子育て世代包括支援センター事業【再掲：同編同章 視点2参照】
----	-----	--------------------------------



# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		子育て世代包括支援センター事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
ハイリスク妊婦への支援プラン作成割合	目標値(%)	100	100	100	100	全てのハイリスク妊婦に対し、支援プランを作成し、支援していくことを目指します。
	実績値(%)	100	100			
	達成度(%)	100	100			
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から子育て期にわたり、専門職が個々の状況に合わせ各種の相談に応じ支援を行いました。</li> <li>・特に、新型コロナウイルスの影響により、孤立感や子育て困難感も増しているため、ハイリスク者等に対しては、庁内の関係課や他の行政機関、医療機関等と連携し、継続した支援を行いました。</li> <li>・業者が提供する母子健康手帳アプリや広報おおむた等を活用し、妊娠・出産・育児に関する、本市の情報発信を行いました。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	21,428 千円					
(次年度への繰越	千円)	10,013	2,945		31	8,439
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の個々の状況に応じた相談・支援を行うために、関係機関との情報共有や連携のためのネットワークを強化する必要があります。</li> </ul>						
今後の方向性（具体策）						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診査の結果や関係機関等との連携により、妊産婦・乳幼児の実情を継続的に把握し、個々に応じた情報提供や指導・助言等の支援を行います。</li> </ul>						

事業名		特定不妊治療費助成事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
特定不妊治療費助成件数	目標値(件)	-	70	70	70	県の助成額に上乗せする事業であるため、R元年度の県の助成件数(63件)を踏まえ設定します。
	実績値(件)	-	35			
	達成度(%)	-	50.0			
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高額な医療費がかかる不妊治療の経済的負担の軽減を図るため、福岡県で実施している特定不妊治療費助成決定夫婦に対して、市の助成を上乗せしました。</li> <li>・R3年度中の県の助成決定件数は83件ですが、市への申請件数は35件にとどまっています。これは、年度末に県への申請が集中しており、県の決定通知が年度をまたいだため、結果として市への年度中の申請ができなかったためです。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	1,849 千円					
(次年度への繰越	千円)				1,500	349
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度より、生殖補助医療の保険適用となることから、県の助成事業は、年度をまたぐ一回の治療について経過措置が行われます。県の助成決定を受け市へ申請をされる分について、現行の助成を確実かつ円滑に行う必要があります。</li> </ul>						
今後の方向性（具体策）						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経過措置期間の円滑な助成に取り組みます。</li> <li>・保険適用後については、事業の終息に向けて県と連携を取り対応していきます。</li> </ul>						

事業名		放課後児童健全育成事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
入所できた児童の割合	目標値(%)	100	100	100	100	すべての利用希望者の入所を目標とします。
	実績値(%)	98.1	99.3			
	達成度(%)	98.1	99.3			
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>本市には19校区中17校区に19の学童保育所(クラブ)を整備しており、未整備の2校区では送迎事業を実施しています。併せて3校区の民間放課後児童クラブに補助金を支出しています。</li> <li>学童保育所(クラブ)については、前年度と比較し利用申込数が少なかったこと、民間放課後児童クラブに対する補助の実施等による待機児童対策に取り組んだことから、R3年4月1日時点の待機児童数は24名となり、前年度より20名減少しました。</li> <li>包括的な待機児童対策を進めることを目的としている「学童保育所(クラブ)待機児童ゼロに向けたパッケージ」に基づき、R4年度実施を予定している校区外送迎事業の組立て、支援員の処遇改善を目的とした放課後児童支援員等キャリアアップ処遇改善費補助事業及び放課後児童支援員等処遇改善費補助事業の実施等を行いました。</li> <li>新型コロナ対策として、マスク等の感染防止に係る物品の配布や利用自粛要請等の対策を行いました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額	198,969 千円					
(次年度への繰越)	千円)	55,123	52,779		35,000	56,067
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>待機児童数は減少したものの未だ解消までには至らず、利用希望者全員の利用ができていません。</li> <li>預かり時間の延長については、事業者との協議を続けているものの実現には至っていません。</li> <li>「学童保育所(クラブ)待機児童ゼロに向けたパッケージ」の着実な取り組みが必要です。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>「学童保育所(クラブ)待機児童ゼロに向けたパッケージ」に基づき、学童保育所(クラブ)の支援員の確保を図り、待機児童の解消や預かり時間の延長の実現に向け、道筋をつけていきます。</li> </ul>						



# 評価・検証シート【施策】

令和 3 年度

【所管部局】教育委員会

施策名	(第1編第2章) 持続可能な社会の創り手を育成する学校教育が充実しているまち
-----	---

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)

児童生徒が持続可能な社会の創り手となれるよう、夢や目標に向かって意欲的に学ぶ力を育成するとともに、自ら課題を発見し、多様な人々と協働しながら主体的に解決する力を育成します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
将来に向けて意欲を持って取り組もうとする 中学3年生の割合	目標値 (%)	80.0	80.0	80.0	80.0	現状値を踏まえ80.0%以上を目指す。 [現状値：78.6%(H30年度実績)]
	実績値 (%)	82.6	82.8			
	達成度 (%)	103.3	103.5			

## 2. 実行(Do)→構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check &amp; Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- 本施策の成果指標のR3年度の実績値は82.8%となり、目標を達成することができました。その要因として、次のようなことが考えられます。
- 児童生徒に「確かな学力(知)」、「豊かな心(徳)」、「健やかな体(体)」をバランスよく育むとともに、個性や能力を伸ばすため、各学校は、児童生徒の興味・関心や能力に応じた教育活動を展開し、教育委員会はその支援を行うとともに、様々な全市的事业に取り組みました。その結果、児童生徒それぞれが自己のよさを様々な場面で発揮でき、達成感を味わうことができたと考えられます。
- これまでに本市は、国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けたESD(持続可能な開発のための教育)の深化を図ってきました。各学校は、学校の特色や児童生徒の発達段階に応じ、ESDで重視する「自ら考え行動する」児童生徒の育成を目指した教育活動を展開しました。教育委員会は、各学校の支援を行うとともに、ESDに関する全市的事业に取り組みました。その結果、児童生徒は、仲間と協力して学ぶことを通して様々なことに挑戦する勇気と価値を体得し、目標に向けて頑張ったことによる達成感を味わうことができたと考えられます。
- 各学校では、児童生徒の発達段階に応じて、体系的なキャリア教育に取り組んでいます。児童生徒が未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協力して学ぶことを通して様々なことに挑戦する勇気と価値を体得することによって、生涯にわたって学び続ける意欲を維持する基盤をつくることができます。地域の方々と連携した「職業調べ」「職業講話」「高校調べ」「オープンキャンパスへの参加」等の啓発的体験を行い、児童生徒が自己実現のための意欲を持つことができるようにしています。

(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)

- これまでの継続的な取り組みの結果がR3年度目標の達成につながったと考えられることから、今後も、知・徳・体のバランスが取れた教育を推進するとともに、本市の特色ある教育の充実を図ることにより、児童生徒が達成感を味わい、新たな目標と将来に向けた意欲を持つことができるようになります。また、児童生徒の発達段階に応じて、体系的なキャリア教育に取り組みます。
- 自ら課題を発見し、多様な人々と協働しながら主体的に解決する力を育成するために、各学校が特色ある教育活動を展開することによって、児童生徒一人ひとりが自己のよさを発揮し、目標を持って主体的に学ぶことができるよう支援します。
- 児童生徒が、夢や目標に向かって意欲的に学ぶ力を育成するために、地域の方々と連携した「職業調べ」「職業講話」「高校調べ」「オープンキャンパスへの参加」等の啓発的体験を継続して推進し、児童生徒が自己実現のための意欲を持つことができるようにしていきます。
- 本施策を構成する事業の重点化を図り、効果的・効率的に取り組めます。

(教育委員会事務局長 桑原 正彦)

## 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R3目標 R3実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 未来を創る児童生徒を育成する特色ある教育の展開							
1	【重点】未来を創るESD推進事業	指導室	ESDを通じた地域や世界への貢献の意識	%	90.0 91.7	順調	継続
2	人と未来と世界をつなぐ海洋教育推進事業	指導室	三池港や有明海に対する興味・関心	%	80.0 87.1	順調	継続
3	【重点】英語教育のまち・OMUTA推進事業	指導室	英語の授業の理解度	%	85.0 85.3	順調	継続
4	おおむた郷土愛育成事業	指導室	郷土大牟田に対する興味・関心	%	90.0 90.8	順調	継続
5	小中一貫校推進事業	学校教育課	児童生徒像と体制に関する研究・協議回数	回	4 6	順調	継続
6	公立中学校夜間学級推進事業	学校教育課	教職員研修と地域説明会の回数	回	2 2	順調	継続
7	【重点】学校ICT活用推進事業	指導室、学校教育課	推進校における研究授業の回数	回	4 5	順調	継続
8	防災・減災教育推進事業	指導室	防災・減災のため自分ができることに取り組もうとする推進校の児童の割合	%	75.0 77.0	順調	継続
[視点2] 子どもの個性や能力を伸ばし、可能性を広げる							
9	少人数学級編制・少人数授業推進事業	学校教育課	少人数学級編制による学習意欲の向上	%	90.0 95.0	順調	継続
10	「学びに向かう力」育成推進事業	指導室	主体的に学習に取り組む態度	%	84.0 84.1	順調	継続
11	【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業	指導室	友だちを大切にする意識	-	3.7 3.74	順調	継続
12	【重点】子ども大牟田体力検定推進事業	指導室	運動を大切に思う意識	%	63.0 68.7	順調	継続
13	学校教育における食育推進事業	学務課、指導室	朝食の必要性に対する児童生徒の理解度	%	90.0 94.6	順調	継続
14	特別支援教育支援員活用事業	学校教育課	特別支援教育支援員の配置効果	%	100 100	順調	継続
[視点3] 学校教育環境の充実							
15	学校再編整備推進事業	学校再編推進室、学務課、学校教育課	学校再編に対する地域の理解と協力（R5で評価）	再編協議回数	- -	-	-
16	空調設備設置事業	学務課	特別教室への空調設置の実施設計を完了した学校数	校	28 28	順調	継続
17	民間プール活用モデル事業	学校教育課	モデル校の一学年当たりの民間プールを活用した年間授業時数	時間	8 8	順調	継続
[視点4] 安心して学べ、地域とともにある学校づくり							
18	(再掲)「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業	指導室	友だちを大切にする意識	-	3.7 3.74	順調	継続
19	大牟田版コミュニティ・スクール推進事業	指導室	モデル校における地域住民と連携・協働した取組の回数	回	6 6	順調	継続
20	スクールソーシャルワーカー活用事業	指導室	SSWが関わることで解決又は好転した事案の割合	%	78.0 78.6	順調	継続
21	就学援助事業	学務課	保護者への就学援助事業を周知した割合（申請書等配布率）	%	100 100	順調	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

1	事業名	【重点】未来を創るESD推進事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	--------------------------------

2	事業名	人と未来と世界をつなぐ海洋教育推進事業	決算額	300
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学と連携し、本市の海洋教育推進校と九州・沖縄の海洋教育推進拠点の研究の交流を支援しました。</li> <li>・市推進校の公開授業に指導主事を派遣したり、学習交流会に講師を招いたりする等の支援を行いました。</li> <li>・市推進校の公開授業や研究成果の発信・交流の支援や、推進校と九州・沖縄の海洋教育推進拠点の学校の児童生徒との学習成果の発表と交流「海洋教育子どもサミット2022 in おおむた」を1月にオンラインで開催しました。</li> <li>・市推進校が行う校外学習にゲストティーチャーを紹介する等、関係機関との連携を支援しました。</li> <li>・11月に開催した「ユネスコスクール・SDGs/ESD 交流会」において、「川・海の世界」をテーマの1つに設定し、教職員が市内の企業・団体、学生、市職員等の多様な参加者とワークショップを行い、子どもたちに育みたい力とそのために必要な学びなどについて協議しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市推進校の実践を市内の各学校へ発信するとともに、市外の海洋教育推進校との実践の交流を通して、更なる広がりや深まりのある海洋教育を推進する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市推進校が実施する学習交流会等の研修会や「海洋教育子どもサミット」等への市内学校の参加、ESD 研修会での実践発表、実践事例集の配布等を通して、海洋教育についての理解の促進を図ります。</li> </ul>		

3	事業名	【重点】英語教育のまち・OMUTA 推進事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	--------------------------------------

4	事業名	おおむた郷土愛育成事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども大牟田検定(入門編・基礎編・上級編)を実施しました。9月に実施した1回目(通算21回目)では、5,646人の児童生徒が基礎編又は上級編を受検しました。1月に実施した2回目(同22回目)では、7,118人の児童生徒が入門編、基礎編又は上級編を受検しました。また、1,927人の市民(高校生を含む)も受検しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が郷土大牟田のことをもっと知りたいと思うとともに、郷土への関心が高まるような取組みを工夫する必要があります。</li> </ul>		
今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、児童生徒の発達段階に応じた検定問題や受検体制等、効果的・効率的な取組み方法を工夫しながら事業を実施し、郷土大牟田を愛し誇りに思うような取組みの充実を図っていきます。</li> </ul>			

## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

5	事業名	小中一貫校推進事業	決算額	54
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に宮原中学校区4校(宮原中、駿馬小、天の原小、玉川小)の校長及び教職員代表による先進校視察を実施しました。また、8月には、宮原中学校区4校の全職員による拡大校内研修会を実施し、先進校視察の報告と次年度の教育課程編成に向けての研修会を実施しました。その後、宮原中学校区の9年間を見通した教育課程編成や校務分掌編成にも取り組みました。さらに、「大牟田市小中一貫教育基本方針」案を作成し、パブリックコメントや校区まちづくり協議会等を通して、制度の導入について周知を図ったほか、中学校校区ごとに、地域説明会を実施しました。このように、地域からの意見を丁寧に聞きながら「大牟田市小中一貫教育基本方針」の成案化を図りました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮原中学校区4校における合同の行事、小学校と中学校間や小学校と小学校間での乗り入れ授業等の実施がどのような方法でできるか検討する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度は、編成した教育課程や校務分掌などをもとに宮原中学校区の小中一貫教育を本格的に試行し、制度導入に向けて準備を行う予定としています。</li> </ul>		

6	事業名	公立中学校夜間学級推進事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月(松原中学校区を主な対象とした「夜間中学講演会」と11月(広く市民を対象とした「全国夜間中学キャラバン in 大牟田」)に学識経験者を招き、夜間中学に関する説明会・講演会を開催し、市民への周知を図りました。さらに、9月から10月にかけて、潜在的入学希望者の把握を行うためのアンケート調査を実施しました(回収数4,016件)。このアンケート調査では、10人から、夜間中学への入学を希望、あるいは前向きに検討する旨の回答がありました。また、「夜間中学を知りたい人が身近にいる」と答えた人が108人いるなど、潜在的入学希望者は一定程度存在していると考えられるという結果となりました。その他、県教育委員会と設置に向けた協議を重ねました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間中学設置に向けては、入学希望者の見通しがつかなければ、教育課程編成や施設設備等の準備ができないことから、入学希望者を把握する必要があります。</li> </ul>		
今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、関係機関等と連携を図り、入学希望者の把握を行うとともに、学識経験者等から助言をいただきながら丁寧に準備を進めます。また、県との協議を進めながら、開設に向けて運営上の検討を行います。</li> </ul>			

7	事業名	【重点】学校 ICT 活用推進事業<<6. 重点事業 参照>>		
---	-----	---------------------------------	--	--

8	事業名	防災・減災教育推進事業	決算額	235
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと小学校を防災・減災教育推進校に指定し、発災への備えに関する学習や避難訓練を実施しました。また、災害の背景にある地球温暖化についても、各教科等の学習を通して学びを深めました。さらに、令和2年7月豪雨災害が起きた7月6日を「防災の日」とし、地域の方々とともに防災について考える機会を設けました。</li> <li>・6月にみなと小学校で開催した第1回防災・減災教育研修会に市立学校の教職員が参加し、防災・減災教育の基本的な考え方や進め方について学び、理解を深めました。11月に同校で開催した第2回研修会では、「みなと校区の未来を考えよう」と題した公開授業などを通して、災害が起きたときに自ら考え、判断し、行動するためにはどうしたらよいか、児童と教職員が学びを深めました。また、みなと小学校でリーフレットを作成して各学校へ配布し、研修の成果を広めました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業による成果を各学校が、児童生徒の発達段階や地域の実態等を踏まえて、各学校に応じた学習に繋げていく必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに本市が培ってきたESDのノウハウを生かし、学校と保護者、地域が連携した、「地域ぐるみの防災・減災教育」を推進していきます。</li> </ul>		

## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

9	事業名	少人数学級編制・少人数授業推進事業	決算額	19,265
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校は全学年で35人以下学級編制を行っており、R3年度は県からの加配教員14人を学級担任として活用し、8校14学年で35人以下学級編制を行いました。中学校は学校の実態に応じ弾力的に35人以下学級編制を行っており、R3年度は1校2学年で35人以下学級編制を行いました。</li> <li>・習熟度別や課題別学習などの少人数授業を実施する場合や、学校が特に学力向上が必要と判断した教科がある場合に、非常勤講師を派遣（小学校8校に13人、中学校5校に5人）し、個に応じた学習指導を充実し、学力の向上を図りました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の成果を更に向上できるように、非常勤講師に対する研修の充実を図る必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後数年間における本事業の対象学級数の出現率を見極めながら、非常勤講師の派遣と研修の充実に取り組みます。</li> </ul>		

10	事業名	「学びに向かう力」育成推進事業	決算額	1,486
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小・中学校が夏季休業期間中に5日間程度実施した強化学習「サマースクール」や、放課後等に実施した補充学習「アフタースクール」に学習サポーターを派遣し、児童生徒個々の実態に応じたきめ細かな指導が行えるよう支援しました。</li> <li>・夏季休業期間中に予定していた「チャレンジスクール」と1月に予定していた「学習チャレンジ大会」は、新型コロナ感染拡大防止のため実施しませんでした。</li> <li>・各小・中学校に対し、夏季休業期間中の自由研究の作品の中から理科や社会科等の学習に関する作品を募集し、理科6点、社会科6点の作品を選出しました。新型コロナ感染拡大防止のため、児童生徒による発表は行わず、表彰のみ行いました。</li> <li>・毎月11日（“いい日”）を「家庭学習の日」と定め、各中学校区において小学校と中学校が連携し、家庭学習強化週間の設定などを通して家庭学習習慣の定着に取り組みしました。</li> <li>・各学校の校内研修等に「学力向上アドバイザー」を派遣し、各学校の学力向上について指導助言を行いました。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に資するため、「授業づくりガイドブック」を作成し、日々の授業で活用が図られるよう各学校の教職員に配布しました。</li> <li>・日々の授業づくりや学力向上プランの充実を図り、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を各学校が実践できるようにするため、教職員を対象に、学力向上実践報告会を2月にオンラインで開催しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査等において、児童生徒の国語科・算数・数学科の記述式の問題について課題があります。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携のもと、中学校区単位で行われる家庭学習習慣の定着の取組みを支援し、学校と家庭が連携した学力向上の取組みを推進していきます。</li> </ul>		

11	事業名	【重点】「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業<<6. 重点事業 参照>>
----	-----	---

12	事業名	【重点】子ども大牟田体力検定推進事業<<6. 重点事業 参照>>
----	-----	----------------------------------



## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

事業名	学校教育における食育推進事業	決算額	—
13	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育推進校（玉川小学校）及び早寝早起き朝ごはん運動推進校（松原中学校）の指定、学校給食への地場産青果物の取り入れ、学校給食週間の開催（児童生徒のポスター・標語の募集、学校給食レシピコンテスト）など、食と健康な生活への関心を高めるとともに、食習慣を改善する取組みを進めました。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育推進校の実践内容や学校給食を通じた食育を各校に発信し、各校との連携を深め、食育を更に推進する必要があります。</li> </ul>	
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育推進校での取組みの内容とその成果を各校へ上げるとともに、特に朝食の重要性について食育通信等での啓発を充実することにより、朝食への理解向上等、食習慣の改善に結びついていくよう更なる啓発を進めます。</li> </ul>	
事業名	特別支援教育支援員活用事業	決算額	92,676
14	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学支援委員会等により要支援と判断された全ての児童生徒 181 人に対し、小学校 19 校に 45 人、中学校 8 校に 20 人、計 65 人の特別支援教育支援員を派遣しました。きめ細かな支援を受けることで、対象児童生徒本人の精神的な安定が図られ、周囲の児童生徒の理解も進み、学級全体が落ち着き、集中して学習に取り組むことができました。また、保護者の介助等の軽減も図られました。</li> <li>・全支援員を対象とした研修会については、R3 年度は、新型コロナ感染拡大防止のため、7 月と 12 月に 2 回（例年は年 3 回（5 月・9 月・2 月））実施し、支援員による児童生徒の発達障害等への理解促進と個に応じた具体的な支援内容の充実に努めました。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も要支援児童生徒の増加が見込まれており、それに伴う人材と派遣人数の確保と、各学校の校長を中心とした組織的な校内支援体制の充実が必要です。</li> </ul>	
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援児童生徒の増加に対応できるよう、支援員の人材確保と資質の向上を図るとともに、組織的な校内支援体制づくりに関する管理職への周知を更に進めます。</li> </ul>	

## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

事業名	学校再編整備推進事業	決算額	39,727
15	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「適正規模・適正配置計画第2期実施計画」の周知を図るため、小・中学生、幼稚園・保育園児の全保護者へ計画概要版を配布するとともに、再編に係る14小学校区のまちづくり協議会等の町内公民館や自治会へ、計画概要版の回覧依頼を行いました。さらに、関係団体に計画の説明を行うとともに、広報おおむた、ホームページ及びFMたんとの活用など、様々な媒体等を通して周知に取り組みました。</li> <li>・小川町の通学区域の見直しについては、天領小学校の入学説明会が新型コロナ感染拡大防止のため中止となったことから、後日、保護者に資料を配布し、周知を行いました。</li> <li>・再編に伴う橋中学校の施設整備について、地域へ説明を行いながら、関係部局等と協議を行い課題等の整理に取り組みました。また、R7年度に新校となる歴木中学校（校舎管理棟）の実施設計を完了するとともに、橋中学校の体育館、校舎等の新增築並びに既存校舎改修の基本施設計を行いました（R4年度までの継続事業）。</li> <li>・上内小学校の小規模特認校制度については、H24年度から制度を導入したことにより、H24・25年度に生じた複式学級編制はH26年度以降解消しています。また、R3年度は、全校児童56人中33人が本制度により校区外から通学し、引き続き複式学級が解消されるとともに特色ある教育活動が展開されました。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校再編の実施にあたっては、保護者や地域等の理解・協力を得ることが重要であるため、丁寧な説明を行い定期的に計画の周知を行う必要があります。</li> </ul>	
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度に引き続き、保護者や地域等に実施計画の内容の周知を行うとともに、R5年度の学校再編協議会の設置に向け、橋中学校の施設整備等、課題の整理を行います。</li> <li>・施設整備について、歴木中学校は、R4年度から第1期工事を行いながら、並行し第2期の設計を進め、橋中学校は、R4年度に設計を完了し、R5年度から工事を順次進めます。</li> <li>・上内小学校については、小規模特認校制度の導入による複式学級解消の成果が上がっており、検証結果や適正配置の観点などを踏まえ、引き続き同制度を継続します。同制度を運用しても、なお複式学級が生じる状況となった場合は、吉野小学校との再編について改めて検討を進めます。</li> <li>・今後、学校の小規模化の進行等が見込まれるため、小規模校の課題解決を目的に、R4年度に検討委員会で検討を行い、方向性を定めます。</li> </ul>	

事業名	空調設備設置事業	決算額	11,277
16	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R元年度に各校1室に設置した各小・中・特別支援学校の特別教室の空調設備について、未設置の特別教室への設置に向けて実施設計を行いました。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設・設備の整備については、学校再編に伴う整備をはじめ、多くの事業を実施するため、空調設備の設置についても計画的に進めていく必要があります。</li> </ul>	
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画の財政計画との整合を図るとともに、国等の有利な財源も活用しながら、R4年度から中学校及び特別支援学校を優先し設置を進めます。</li> </ul>	

事業名	民間プール活用モデル事業	決算額	761
17	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋中学校をモデル校として、第3学年の体育科の水泳指導を業者に委託し、各学級8時間実施しました。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託を実施する学年の拡大に向けて、学校と委託業者の連携を充実させる必要があります。</li> </ul>	
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度は、第1学年から第3学年まで委託することとしており、円滑に実施できるよう、学校と委託業者の間で指導方法・内容等の密な連携を図ります。</li> </ul>	

## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

18	事業名	「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業【再掲：同編同章 視点2参照】		
----	-----	--	--	--

19	事業名	大牟田版コミュニティ・スクール推進事業	決算額	—
	事業の実施状況	・吉野小学校に地域学校協働活動推進員を配置し、地域と学校をつなぐ地域学校協働活動をコーディネートしました。学校の教育活動を実施するにあたり、ゲストティーチャーとの連絡や調整を行い、地域人材を活用した授業を円滑に進めることができました。		
	課題	・地域学校協働活動推進員を中心として、学校教育と社会教育との連携をさらに進めるとともに、これまで、本市が進めてきたESDの実績を踏まえて、大牟田版コミュニティ・スクールの枠組を構築していく必要があります。		
	今後の方向性(具体策)	・吉野小学校区における実践の成果と課題を市内の各校区に広め、校区の特徴を踏まえた地域学校協働活動を推進します。		

20	事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	決算額	8,242
	事業の実施状況	・教育相談室にスクールソーシャルワーカー(SSW)を3人配置し、さらに、県から派遣されたSSWを1中学校区に1人配置しました。SSWが有する社会福祉等の専門的な知識・技能を用いて、児童生徒や保護者の相談に応じたり、福祉機関等の関係機関とのネットワークを活用したりして、問題を抱える児童生徒及びその家族の支援を行い、児童生徒の問題行動等の解決に努めました。		
	課題	・相談件数は年々増加し、相談内容も多様化・複雑化しており、様々な関係機関と連携して、よりきめ細かな対応ができるよう、相談体制の充実を図る必要があります。		
	今後の方向性(具体策)	・SSWと関係機関との更なる連携を図るとともに、拠点校型や派遣型等、児童生徒一人一人の状況に応じたきめ細かな対応ができる相談体制の充実を図ります。		

21	事業名	就学援助事業	決算額	—
	事業の実施状況	・学校教育法等の関係法令及び大牟田市就学援助要綱に基づき、経済的理由によって就学困難な1,329人(小学校865人、中学校464人)の児童生徒の保護者に対し、就学援助として学用品費、学校給食費、医療費等を支給しました。また、心身の理由により普通教室での就学が困難な児童生徒の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費を支給しました。 ・このほか、R3年度は、R2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響による収入減少により就学が困難な児童生徒、また、令和2年7月豪雨災害で被災された児童生徒の保護者に対し、就学援助の支援を行いました。(新型コロナウイルス影響：21人、豪雨災害：228人(未就学分含む。))		
	課題	・今後も就学援助の制度周知や申請手続き面の充実に努めていくとともに、就学援助の運用等についても検討していく必要があります。		
	今後の方向性(具体策)	・子どもの貧困対策の推進に関する法律などの関係法令の趣旨を踏まえ、今後も引き続き、援助が必要な児童生徒の保護者に対し、就学援助制度の周知を図るとともに、申請手続き面の負担軽減も図りながら、必要な援助を適切に実施できるよう進めていきます。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による収入減少により就学が困難な児童生徒や令和2年7月豪雨災害で被災された児童生徒の保護者に対しては、R4年度も引き続き就学援助の支援を行います。このほか、R4年度からは、家庭におけるオンライン学習を実施するにあたり、就学援助世帯の負担軽減を図るため、オンライン学習通信費の援助を行います。		

# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		未来を創る ESD 推進事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
ESDを通じた地域や世界への貢献の意識	目標値(%)	90.0	90.0	90.0	90.0	地域や世界のために頑張りたいと答えた小学5年生と中学2年生の割合(H30年度実績・89.7%)を、毎年度90.0%以上を維持することを目標とします。
	実績値(%)	91.0	91.7			
	達成度(%)	101.1	101.9			
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>ESDの学習成果の発表と交流の場「ユネスコスクール・SDGs/ESD子どもサミット」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送りましたが、小学校4校・中学校1校の発表をDVDに記録して全学校に配布し、情報共有を図るとともにESDの活動に関する理解を深めました。</li> <li>教職員研修会「ユネスコスクール・SDGs/ESD交流会」や、ESDの中核となる指導的教員「ESDマスターティーチャー」の養成講座を通して、SDGs/ESDの理論と実践について学びを深める機会を提供しました。</li> <li>市内企業、団体等へのSDGs/ESDについての講話や各学校の取組みを紹介するなどして啓発を進めました。</li> <li>本市のSDGs/ESDの取組みについて、広報おおむたやホームページ等を通して紹介・啓発を行いました。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	935 千円					935
(次年度への繰越)		千円)				
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校のESDをリードしていく教員を今後も養成するとともに、市民団体や地元企業等との連携を図り、各学校が重点とするSDGsの達成を目指したESDの充実を図っていく必要があります。</li> </ul>						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>「大牟田版SDGs(Ver.2)」を参考に各学校が目指すSDGsを重点化するとともに、「SDGs/ESD交流会」や「ユネスコスクール・SDGs/ESD子どもサミット」を通して、ESDの更なる充実を図ります。</li> </ul>						

事業名		英語教育のまち・OMUTA 推進事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
英語の授業の理解度	目標値(%)	85.0	85.0	85.0	85.0	外国語(英語)科の授業はよく分かると答えた小学5年生と中学2年生の割合(H30年度実績・84.2%)を、毎年度85.0%以上を維持することを目標とします。
	実績値(%)	88.0	85.3			
	達成度(%)	103.5	100.4			
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>英語指導のサポートを行う「イングリッシュ・アドバイザー」を小学校に派遣し、外国語科の授業を支援しました。</li> <li>小中学校の英語教育の発表の場「オオムタ・E1グランプリ」の作品募集において、小学校は英語のスキット(寸劇)、中学校は英語のスピーチや暗唱の動画の応募(全14本)があり、12月に審査・表彰を行いました。</li> <li>「英検チャレンジスクール」を2回開催し、小学生58人、中学生22人が参加しました。</li> <li>明治小学校・大牟田中央小学校と動物園の連携による、児童の興味関心を活かした教育を支援しました(11月)。</li> <li>小学5・6年生の英検5級受験者241人と中学2・3年生の同3級受験者102人に検定料の一部を補助しました。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	891 千円					891
(次年度への繰越)		千円)				
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領の全面実施に合わせた学習活動の充実を図り、英語を使う実践力の向上が必要です。また、英検検定料の一部補助の継続を含め、児童生徒の興味・関心に応じた学習機会を継続的に提供することが必要です。</li> </ul>						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領の全面実施と合わせ、小学校段階での英語を「読む」「書く」の学習が充実するよう、学習展開の充実を図ります。また、R3年度に参加希望の多かった「英検チャレンジスクール」の開催や、「オオムタ・E1グランプリ」の開催(内容や方法の変更)、英検検定料の一部補助について取組みを継続します。</li> </ul>						

事業名		学校 ICT 活用推進事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
推進校における研究授業の回数	目標値(回)	—	4	4	6	小・中各1校の推進校において、ICTを活用した学習指導に関する研究授業を、事業進捗に応じて実施するものです。
	実績値(回)	—	5			
	達成度(%)	—	125.0			
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀水小学校と田隈中学校を大牟田 GIGA スクール推進校に指定し、ICTの効果的な活用に関する先進的な研究を進めました。銀水小学校では、6月に拡大校内研究会を開くとともに、11月に研究発表会を実施し、市全体にその成果を広めました。また、授業等でのICT活用の教職員研修会や小学校全学年の国語・算数のデジタル教科書の整備を行いました。</li> <li>・各学校でのICTの活用が円滑に進むよう、業者委託により、タブレット端末等の操作支援や障害発生時の対応等（ヘルプデスク業務）を行うとともに、タブレット端末等の操作研修を実施しました。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	24,073 千円					24,073
(次年度への繰越)						
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の間でICT活用に係るスキルの習熟度に差が見られるため、タブレット端末等の効果的な活用について研鑽を積む必要があります。</li> </ul>						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した研修会を実施し、機器を活用できる教職員を増やすとともに、スキルアップを図っていきます。また、学校ICTの活用促進を通して、教員の負担軽減を図るとともに、個別最適な教育を進めていくツールとして、タブレット端末を有効活用していきます。</li> </ul>						

事業名		「思いやり・親切」応援隊子どもプロジェクト事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
友だちを大切にすること意識	目標値	3.7	3.7	3.7	3.7	学校生活アンケート(1~4の4段階で評価)での「友だち関係」の項目のH30年度の平均値3.7ポイント(小学5年生と中学2年生が対象)を毎年度上回ることを目標とします。
	実績値	3.72	3.74			
	達成度(%)	100.5	101.1			
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区単位での「児童会・生徒会リーダーミーティング」を開催し、各学校の児童生徒が「思いやり・親切」に係る取組みの成果と課題等について協議しました。</li> <li>・6月に児童会・生徒会担当者会を開催し、「思いやり・親切」に係る各学校の取組みの情報共有を行うなどして、児童生徒主体の取組みの充実を図りました。各学校の児童会・生徒会で「思いやり・親切」のある楽しい学校づくりの具体的な取組みを定めるとともに、各学校に対し「思いやり・親切」に係るポスターと標語を募集しました。各学校で募集が行われたポスターと標語の審査を10月に行い、優れた作品を表彰しました。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	100 千円					100
(次年度への繰越)						
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも、市全体の共通実践を採択し、実践の成果と課題を共有する仕組み作りが必要です。</li> </ul>						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区単位の取組みと学校単位の取組みを市全体で共有し、その上で、市全体の共通実践を採択する仕組みを構築します。この共通実践を各学校で更に具体化することで、取組みの充実を図ります。また、各学校が保護者や地域に向けて積極的に情報発信するよう支援を継続します。</li> </ul>						

事業名	子ども大牟田体力検定推進事業					
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
運動を大切に思う意識	目標値(%)	63.0	63.0	63.0	63.0	運動を大切に思うと答えた小学5年生と中学2年生の割合(H30年度実績:62.2%)を毎年度上回ることを目標とします。
	実績値(%)	64.8	68.7			
	達成度(%)	102.9	109.0			
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に「体力向上チャレンジカード」と「検定カード」を全児童生徒に配布し、各学校では、1日15分以上の運動習慣の定着や、体育の授業や昼休み等での個人や集団での縄跳びの指導を通して体力の向上を図りました。</li> <li>・全学校で年2回の子ども大牟田体力検定を実施し、到達度合いに応じた体力認定証を配布しました。</li> <li>・小・中学校体育科研究会と連携し、児童生徒の体力実態を踏まえた体力検定の行い方等について検討しました。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	108 千円					108
(次年度への繰越	千円)					
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校において、子ども体力検定に係る取組みを通して、運動の喜びや楽しさを味わわせ、さらなる運動の習慣化を図る必要があります。また、中学校においては、各学校の実態に応じた取組みの工夫を継続していく必要があります。</li> </ul>						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校においては、運動の習慣化を重点化し、運動の喜びや楽しさを味わわせるため、「体力検定チャレンジカード」の活用の充実を図ります。中学校においては、各学校の体力に係る実態に応じて、学校独自の取組みを重点化し、目標達成に向けた取組みを継続します。</li> </ul>						



# 評価・検証シート【施策】

令和 3 年度

【所管部局】企画総務部

施策名	(第1編第3章) 専門的な教育の機会が確保され、高等教育機関等との連携や交流が進むまち
-----	--

## 1. 計画(Plan)

意図(どのような状態になることを狙っているのか)

市民の身近なところで専門的な教育を受けることができ、高等教育機関等との連携や交流、学生等のまちづくりへの参加が進むまちを目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
高等教育機関等との連携事業数	目標値(事業)	30	30	30	30	現状値を踏まえ目標値を設定。 [現状値:30事業(過去3年間の平均)]
	実績値(事業)	15	22			
	達成度(%)	50.0	73.3			

## 2. 実行(Do) → 構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check &amp; Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- 本市と高等教育機関等との連携や学生等の参画については、年度当初に41事業での連携を予定していましたが、新型コロナの影響により、19事業が中止となり、実施できたのは22事業でした。
- 実施された連携事業においては、高校生等が自ら企画した事業を実践する「高校生まちづくり体験事業」をはじめ、学生・生徒による小中学生の学習支援やAR・VR技術や放射線技術に関する市民講座等が開講され、市民が身近なところで専門的な知識に触れる機会となりました。
- 市外の高等教育機関等である日本経済大学や東京都市大学との連携を推進しました。

(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)

- 高等教育機関等の存在は、本市において教育を受ける機会の多様化に寄与しています。教育水準の向上はもとより、高度な専門教育による優秀な人材の輩出、大学が存在することによる都市イメージの向上、多くの若い人たちが大牟田に集まることによりもたらされるまちのにぎわいなど、地域の活性化が期待されます。
- 引き続き、今後のまちづくりを担う人材を育成するとともに地域課題の解決を図るため、新型コロナの感染状況に留意しながら、学生等のまちづくりへの参加を促進します。
- これまで市内の高等教育機関である医療系の帝京大学福岡キャンパス、理系の有明工業高等専門学校などを中心に連携を進めてきました。こうした連携は継続しながら、市外の高等教育機関等の持つ知見を活かしたまちづくりにも取り組みます。

(企画総務部長 森 智彦)



## 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R3 目標 R3 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 高等教育機関等との連携の推進							
1	高等教育機関等との連携事業	総合政策課	高等教育機関等との連携事業数	事業	30 22	やや遅れ	継続
[視点2] 学生等のまちづくりへの参加促進							
2	学生等のまちづくり参加促進事業	総合政策課	市主催事業等への参加者数	人	600 386	やや遅れ	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

事業名	高等教育機関等との連携事業	決算額	-
1	<p>事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の高等教育機関等との連携事業の充実促進を図るため、さまざまな機会をとらえ、帝京大学福岡キャンパスや有明工業高等専門学校、市内7つの高校との意見交換を行いました。</li> <li>高等教育機関等が持つ教育資源との連携や人材・情報の交流を推進するとともに、市民がより高度な知識や情報を得ることを目指し、22の連携事業に取り組みました。しかしながら、連携を予定していた事業のなかには、新型コロナの影響により、実施できなかった事業もあります。</li> </ul>		
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育機関等の持つ知見を活かしたまちづくりに取り組むため、高等教育機関等のニーズやシーズを把握しながら、高等教育機関等とこれまで以上に連携を図ることが必要です。</li> </ul>		
	<p>今後の方向性(具体策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高等教育機関等との意見交換によるニーズやシーズの把握を行うとともに、関係各課との情報共有や必要に応じたマッチングを行うことにより、更なる連携事業の実施を促します。</li> </ul>		

事業名	学生等のまちづくり参加促進事業	決算額	-
2	<p>事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種イベントや児童・生徒への学習支援などにおいて、高等教育機関等との連携を行いました。新型コロナの影響により、目標には届きませんでしたが、延べ386人の参加がありました。</li> <li>市外の高等教育機関等との連携においては、日本経済大学の学生等による、市内企業のSDGs及びBCPに係る実態調査が行われたほか、交通費等を支援する高等教育機関等連携推進費を活用し、東京都市大学の学生等による、高齢者の移動や免許返納の意識などに関する調査が行われました。</li> </ul>		
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市が実施している事業のうち、学生等の参加が可能なものについては、関係部局との連携の可能性を検討していくことが必要です。</li> <li>学生等がより本市のまちづくりに関心を持ち、積極的な参加ができるよう、より学生等のニーズにマッチした情報提供が必要です。</li> </ul>		
	<p>今後の方向性(具体策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナの感染状況に留意するとともに、情報提供の工夫を行いながら、各部局における取組みへの学生等の参加を促します。</li> </ul>		



# 評価・検証シート【施策】

令和 3 年度

【所管部局】市民協働部

施策名	(第1編第4章) 未来に向けて、ともに学び、地域で行動する人がはぐくまれるまち
-----	--

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)
次世代を担う子どもたちを中心に、ともに学び、考え、行動する人がはぐくまれるまちを目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
将来、大牟田のために役に立ちたいと思う高校生等の割合	目標値 (%)	90.0	90.0	90.0	90.0	事業に参加した高校生等向けアンケートにおいて90.0%以上を目指す。
	実績値 (%)	77.8	50.0			
	達成度 (%)	86.4	55.6			
地域にある課題解決に向けて、自らが出来ることに取り組みたいと思う市民の割合	目標値 (%)	50.0	50.0	50.0	50.0	現状値を踏まえ50.0%以上を目指す。 [現状値:47.5%(H30年度実績)]
	実績値 (%)	46.2	46.8			
	達成度 (%)	92.4	93.6			

## 2. 実行(Do) → 構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check &amp; Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)
<ul style="list-style-type: none"> <li>本施策の成果指標である「将来、大牟田のために役に立ちたいと思う高校生等の割合」については、前年度の77.8%から27.8ポイントダウンの50.0%となり、目標の達成としては55.6%となりました。要因としては、新型コロナウイルスの影響により、青少年の体験活動等の各事業の実施数が計画していた数まで伸びなかったことや、組織・団体等での活動の縮小などによるものと考えられます。しかしながら、高校生まちづくり体験事業や学校ESD支援事業などを実施したことにより、小学校・中学校との関係が構築されるとともに、高校や高校生との繋がりが図られ、大牟田への関心を高める機会となりました。</li> <li>「地域にある課題解決に向けて、自らが出来ることに取り組みたいと思う市民の割合」では、前年度の46.2%から0.6ポイントアップの46.8%となり、目標の達成としては、93.6%となりました。要因としては、市民への幅広い学習機会の提供を行うとともに、地域ESD推進事業、人材育成・地域活動促進事業などを実施し、地域課題の把握や解決に向けた取り組みを行ったことで、学習活動の必要性や地域づくりに対する意識の醸成を図ったことが考えられます。</li> </ul>
(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代の育成を推進するためには、これまでの地域や各団体における小学生を対象とした事業だけでは効果が限られることから、中学校や高校を巻き込んだ新たな事業展開を図り、地域や学校を含め、小・中・高校生、そして地域のボランティアを担う大人が一体となった事業に取り組みます。</li> <li>そのためには、家庭や学校、地域の理解と多くのボランティアの協力が必要となることから、より多くの市民が各事業の仕組みや主旨を理解した上で協力していただけるよう、事業の内容や必要性について引き続き周知・啓発を図ります。加えて、組織や団体が継続し活動ができるよう、新たな組織のあり方を検討し、子どもたちが心身ともに健康でたくましく、思いやりの心やふるさとを愛する心を持った自立した大人へと成長していくことにつながるような支援を検討します。</li> <li>地域での学習活動の支援では、課題やニーズを的確に捉えた学習の機会を、地区公民館等の市民に身近な場所で提供するとともに、学校や地域、関係機関との連絡調整を密にしながら、事業の組立や運営を行います。また、出前講座の充実や生涯学習ボランティア派遣などを通して、市民への幅広い学習機会の提供を図ります。</li> </ul>
(市民協働部長 坂井 尚徳)

## 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R3 目標 R3 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 次世代を担う子どもをはぐくむ							
1	子ども交流体験事業(次世代を担う人づくり事業)	生涯学習課	引き続き活動したいと思った児童等の割合	%	50.0 85.7	大変順調	継続
2	【重点】高校生まちづくり体験事業(次世代を担う人づくり事業)	生涯学習課	企画した高校の数	校	6 4	やや遅れ	継続
3	子どもの読書推進事業	生涯学習課	12歳以下の住民基本台帳人口1人あたりの児童図書平均貸出冊数	冊	15.8 11.4	やや遅れ	改善
4	子どもの体力向上事業	スポーツ推進室	半年後に運動・スポーツを週1回以上継続して実施している子どもの割合	%	100 —	遅れ	継続
5	スポーツ少年団育成委託事業	スポーツ推進室	小学生数に占めるスポーツ少年団員数の割合	%	13.0 11.8	順調	継続
6	各世代に応じた学習活動支援事業	生涯学習課	各事業の参加者(講師等を含む)が学んだ成果を活かすことができたと答えた割合	%	90.0 84.9	順調	継続
7	家庭教育支援事業	生涯学習課	就学前子育て講座の出席率	%	85.0 92.0	順調	継続
8	わくわくシティ基金事業	スポーツ推進室、生涯学習課	スポーツ・文化の振興を通じた青少年育成事業への助成件数	件	2 1	遅れ	継続
9	(再掲)文化芸術体験を通じた子ども・若者育成事業	生涯学習課	大牟田への愛着が以前より深まった参加者の割合	%	80.0 95.5	順調	継続
10	(再掲)文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業	生涯学習課	課題を解決するためには他者を尊重したり支えあうことが重要だと理解した参加者の割合	%	90.0 —	遅れ	継続
[視点2] ESDを通じた人づくり、つながりづくり、地域づくり							
11	生涯学習ボランティア登録派遣事業	生涯学習課	生涯学習ボランティア延べ登録者数	人	1,600 1,555	順調	継続
12	地域ESD推進事業	生涯学習課	参加者の地域活動への参加意欲の増加	%	90.0 84.4	順調	継続
13	【重点】学校ESD支援事業	生涯学習課	支援を行った小・中・特別支援学校の数	校	6 7	順調	継続
14	人材育成・地域活動促進事業	生涯学習課	年度末までに講座等から発足した新規の地区公民館サークル数	団体	15 14	順調	継続
15	学習成果活用促進事業	生涯学習課	各地区公民館におけるサークル・地域団体、学校の作品展示等の事業数	件	15 74	大変順調	継続
[視点3] 学習環境の整備・充実							
16	学習情報提供事業	生涯学習課	愛情ねっと・大牟田ちようどよ課への「学習・講座」情報の掲載件数	件	231 193	順調	継続
17	多様な学習機会提供事業	生涯学習課	インターネットを活用した学習コンテンツの配信数	件	3 3	順調	継続
18	社会教育機能向上事業	生涯学習課	研修参加者のうち研修で得たものを事業に活かしたいと答えた延べ職員の割合	%	100 97.7	順調	継続
19	地区公民館等整備事業	生涯学習課	当該年度に予定していた施設修繕の実施率	%	100 100	順調	継続
[視点4] 青少年の問題行動や悩みへの対応							
20	青少年健全育成事業	生活安全推進課	本市の非行者率(少年人口千人当り)	%	2.6 1.5	順調	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

事業名	子ども交流体験事業(次世代を担う人づくり事業)	決算額	-
1	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館において、食や環境等をテーマに、ものづくりや自然体験など子どもたちの体験活動講座を19講座予定していましたが、新型コロナの影響により2講座を中止し、17講座実施しました。</li> <li>・小学4年生から6年生を対象に、自分の将来のこと、夢や目標を見つけるきっかけづくりや未来に向けて頑張る姿勢を身につける一助となることを目的とした子ども未来デッサン事業を3講座予定していましたが、新型コロナの影響により1講座を中止し、2講座実施しました。</li> <li>・子どもの居場所事業では、新型コロナの影響もありましたが、21団体中20団体において、感染防止策を講じながら実施することができました。なお、通学合宿事業は、宿泊を伴うことから実施した団体はありませんでした。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館で実施する講座は小学生を対象としたものが中心であるため、中学・高校生への拡がりが必要です。</li> <li>・地域で活躍するボランティアの高齢化が進むとともに、複数の団体で同じ方が活動されている傾向があることから、新たにボランティアを始める人を増やす工夫が必要です。</li> </ul>	
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生・高校生向けの講座の企画だけでなく、講座に参加した小学生が、中学・高校生になっても引き続き参加できるような事業にも取り組みます。</li> <li>・地域全体で子育てができるような機運の醸成やボランティア活動への理解促進・活動への参加意識の醸成を図ります。</li> </ul>	

2	事業名	【重点】高校生まちづくり体験事業(次世代を担う人づくり事業) <<6. 重点事業 参照>>	
---	-----	---	--

事業名	子どもの読書推進事業	決算額	860
3	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれてきた全ての子どもが絵本と出会う機会をつくるため、出生時の手続きをする窓口において、絵本と布バッグ等がセットとなったブックスタートバックを手渡しするとともに、読書ボランティアの協力のもと読み聞かせを行う「絵本による赤ちゃんとのコミュニケーション講座」を実施しました。</li> <li>・読書の大切さを啓発するチラシを小・中・特別支援学校の児童・生徒に配布しました。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染拡大防止のため、R3年5月12日～6月20日、8月10日～9月12日の期間、図書館を臨時休館し、休館中は、インターネットと電話での予約受付を行い予約本のみの貸出しを行いましたが、児童図書の貸出し冊数は目標に達しませんでした。</li> </ul>	
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍においても、読書活動の推進並びに学習支援を図ることが可能となるように、インターネットで電子書籍を借りて読むことができる電子図書館を導入します。</li> </ul>	

事業名	子どもの体力向上事業	決算額	-
4	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前の子どもと親を対象に、親子の運動遊びを通して運動・スポーツに親しむ「親子運動セミナー(全5回)」を実施する予定でしたが、新型コロナの影響により中止しました。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人日本レクリエーション協会の分析では、学習や室内遊びの時間の増加、屋外での遊び場の減少、少子化等による仲間の減少など、子どもを取り巻く環境変化が、運動不足、体力低下を招いているとしています。</li> </ul>	
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあっても、感染防止策を十分に講じた上で安全・安心に事業が実施できるよう、引き続き、検討を続けます。</li> </ul>	

## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

5	事業名	スポーツ少年団育成委託事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ少年団員の体力・健康の現状を把握し、その増進を図るとともに、各少年団相互の親善と友情を深めるための事業として体力テストを実施しましたが、交流ドッジボール大会は、新型コロナの影響により中止しました。</li> <li>・機関紙「おおむたしスポーツ少年団ニュース」を発行し、その中で、スポーツ少年団への加入促進を図りました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ少年団の組織数、団員数が減少傾向にあり、団の存続や団員確保が困難になってきています。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子どもたちにスポーツ活動の場を提供する貴重な組織で、引き続きの支援が必要であるため、委託先と連携し、周知啓発等を通じた団員確保の取り組みを進めます。</li> <li>・スポーツ少年団が抱える課題等を調査・分析し、次期スポーツ推進計画(R5年度～)を策定する中で、方策を検討します。</li> </ul>		
6	事業名	各世代に応じた学習活動支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や子育て世代をはじめあらゆる層の市民が参加できる学習機会を提供するため、地区公民館において53講座を予定していましたが、新型コロナの影響により20講座を中止し、33講座を開催しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座終了後も継続した学習活動に結び付けるため、学んだ成果を活かしたいと思えるような取り組みが必要です。</li> <li>・学んだ成果を活かし、個人が成長するとともに、子どもたちの成長へとつながる取り組みが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の対象者を明確にするとともに、内容や実施時間の設定などを検討し、より多くの人々が参加しやすい講座を実施します。</li> <li>・講座受講者による新たなサークルの立ち上げや、既存サークルへの加入により、継続した学習活動につながる講座を実施します。</li> </ul>		
7	事業名	家庭教育支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館において、幼児、小学校低学年・高学年、思春期などに区分し、「家庭教育講座」を4講座開催(新型コロナの影響等により2講座は回数を減らして実施)したほか、各小学校が実施する入学説明会の機会を活用し、「就学前子育て講座」を実施しました(新型コロナの影響により入学説明会が中止・時間短縮等となったため、19校区中1校区のみ実施。18校区は資料を配布)。また、幼稚園等入園前の子どもの保護者が子どもと一緒に安心して集える「子育てふれあい広場」を実施するとともに、「幼児期子育て講座」をR3年8月に開催し、17人が参加しました。</li> <li>・子育て情報誌「おおむたっ子」を年3回発行しました。(発行数は延べ34,500部)</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達段階に応じて、切れ目のない家庭教育の支援を行える環境を整える必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの保護者に家庭教育の在り方について見つけなおす機会を提供できるよう、効果的な子育て講座等の周知や、実施方法等を検討します。</li> <li>・地区公民館ごとに幼児期から思春期までのそれぞれの発達段階に応じた講座を実施します。</li> </ul>		
8	事業名	わくわくシティ基金事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ分野は、R3年度に延期された中友剣道スポーツ少年団による創立60周年記念大会を開催予定でしたが、新型コロナの影響により、R4年度に再延期しました。</li> <li>・文化芸術分野は、R3年度は4事業実施予定としていましたが、新型コロナの影響により3事業がR4年度に延期となり、(一社)OMUTA BRIDGEによる子どもたちが地元の農産物を用いて、新しい商品の開発から販売までを地域の大人たちと交流しながら行う事業のみ実施しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや若者が貴重な体験ができるよう、基金事業について広く周知し、取り組みを推進していく必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の掘り起こしと、多くの応募が得られるための周知を行います。</li> <li>・事業の申請にあたっては、必要に応じた支援を行います。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

9	事業名	文化芸術体験を通した子ども・若者育成事業【再掲：同編第6章 視点2参照】
---	-----	--------------------------------------

10	事業名	文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業【再掲：同編第6章 視点3参照】
----	-----	-------------------------------------

11	事業名	生涯学習ボランティア登録派遣事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の学習を支援するために、さまざまな経験や学習によって培われた知識や技能を持っている人材を、「生涯学習ボランティア」として登録し、地域・施設・学校などで行われる学習会や行事等に派遣しました。</li> <li>・新型コロナの影響により、学習会や行事等の会場として使用されている施設等が利用中止になり、すでに派遣が決定していた事業も中止や延期されたため、派遣回数が例年と比べて大きく減少しました。</li> </ul> <p>＜おおむた生涯学習まちづくり推進協議会＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習ボランティア延べ登録者数：1,555人</li> <li>・派遣回数：延べ316回（参加者数延べ7,010人）</li> <li>・表彰式・発表会（※新型コロナ感染拡大防止のため延期）</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア登録者の高齢化が進み、登録団体における会員確保や後継者の育成が困難な状況にある団体が増えつつあります。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者を登録につなげるための働きかけや登録団体の会員募集と活動紹介の支援を行うことで、新規登録者の確保や既存の登録団体の会員数増加を図ります。</li> </ul>		

12	事業名	地域ESD推進事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区まちづくり協議会などの関係団体との協議を行い、地域課題の解決に結びつくような学習活動や地域の伝統文化を次世代に継承する取組み、地域コミュニティの形成、人材発掘・人材育成に向けた事業などを17講座計画しましたが、6事業は新型コロナの影響により中止し、11講座を実施しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だけではなく、地域におけるESDの取組みへの理解を深める必要があります。</li> <li>・地域における活動が、高齢化や地域の活動に対する参加意欲の低下等で一部の住民に偏在している状況があります。</li> </ul>		
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題解決のきっかけとなるよう、ESDの視点を持った取組みへの地域の理解促進を図ります。</li> <li>・地域との関わりの中で機会をとらえ、人づくり、つながりづくり、地域づくりに結び付くような取組みを実施します。</li> </ul>		



【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

13	事業名	【重点】学校 ESD 支援事業<<6. 重点事業 参照>>
----	-----	-------------------------------

14	事業名	人材育成・地域活動促進事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の講座受講者が学んだ成果を活かすため、新規サークルの立上げや、既存のサークルへの加入を促すなど、継続した活動の場や機会の提供を図りました。</li> <li>・ボランティア団体や地域の団体、公民館で活動するサークル等の活動について、必要に応じた支援を行う事業など、22事業を計画していましたが、新型コロナの影響により10事業が中止となり、12事業を実施しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響のため定員を減らして講座を実施しており、また、外出を控え人との接触を避ける傾向もあり、サークルが立ち上がりにくい状況にあります。</li> <li>・公民館で活動するサークル等が、学んだ成果をボランティア活動、地域活動に活かしていく意識の醸成を図る取組みが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館で活動するサークル等に、活動時や研修会などの機会をとらえ、学んだ成果を社会に還元していくことの意義や重要性について、理解を深める取組みを実施します。</li> <li>・講座などから立ち上がったサークルや、ボランティア活動を行っている(行いたい)市民、団体の生涯学習ボランティア登録を促し、活動機会の提供を図ります。</li> <li>・新型コロナの影響による活動の滞り等を最小限に止めるため、安心・安全な活動の場の提供を図ります。</li> </ul>		

15	事業名	学習成果活用促進事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のボランティアを養成する「アクティブシニアデビュー塾ボランティアデビュー編」を開催しました。7講座を予定しておりましたが、1講座は新型コロナのため中止となりました。6講座を開催し、64人が受講しました。</li> <li>・地区公民館の各サークル活動の日頃の成果として、新型コロナの影響により中止した文化祭等に替え、公民館ロビーなどを活用し、長期間の作品展を開催するなど、会員の活動の場の拡大と各サークル等の団体の発展を目指した事業を実施しました。</li> <li>・子どものサークル体験や学校の活動の成果などの作品展示を行うなど、世代間の交流を通して、次世代の育成を図りました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の受講者やボランティア登録者が、学習の成果を地域での活動に活かす機会の提供が必要です。</li> <li>・地区公民館で活動するサークルが学んだ成果を発表する場や機会を創出し、まちづくりへ参画する意識の醸成が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館で実施する講座等における講師の選定の際に、生涯学習ボランティア登録者等を積極的に活用し、新たな活動や学びの循環を図ります。</li> <li>・文化祭やロビー展など、サークルの学びの成果を発表できる機会を創出します。</li> </ul>		

16	事業名	学習情報提供事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて情報誌やリーフレット、ホームページ、愛情ねっと、FMたんなど多様な媒体を活用し、様々な学習情報を提供しました。</li> <li>①学習情報誌「まなびのカatalog」の発行(奇数月に年6回発行2,000部/回)</li> <li>②おおむた生涯学習メニューブックの発行(冊子2,500部)</li> <li>③広報おおむたによる学習情報及び生涯学習の啓発(全3回)</li> <li>④その他:ホームページ、SNS、愛情ねっと、FMたんを活用した情報発信</li> <li>・上記のほか、R3年6月から運用開始されたLINEを活用し109件の情報発信を行いました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民がいつでも気軽に学習活動が行えるよう、情報発信の強化を図り、必要な学習情報がすぐに得られるようにすることや、様々な学習情報を提供することで、日頃学習活動を行っていない人の学習意欲を喚起し、学習活動に参加してもらうことが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習情報の発信に関するガイドライン」を作成し、全庁的なルール化を図ったことから、このガイドラインに基づき、講座や催し物などの情報がより多くの人に伝わるよう、情報提供に取り組めます。特にLINEを活用した情報発信を行います。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

事業名	多様な学習機会提供事業	決算額	-
17	<p>事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や高等教育機関との連携などにより実施する学習機会の充実を図るとともに、様々な媒体を通じて各事業のプロモーションを行うことで、市民の自主的な学習活動の促進につながりました。</li> <li>＜おおむた生涯学習まちづくり推進協議会＞</li> <li>・企業出前講座「がんばる地場企業」【企業】：26社46メニュー／実施回数9回／受講者延べ313人</li> <li>・市民大学講座【高等教育機関との連携】：4回（帝京大学福岡キャンパス・有明工業高等専門学校）／受講者 延べ84人</li> <li>＜大牟田市生涯学習まちづくり推進会議＞</li> <li>・市役所職員出前講座【行政】：123メニュー／派遣回数65回／受講者 延べ2,175人</li> <li>・動画で学ぼう出前講座（インターネットを活用した出前講座の動画配信）【行政】：3件</li> </ul>		
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により、地域における出前講座等の学習機会の利用が一時減少したため学習機会やメニューの充実を図ることとあわせて、利用促進にも取り組む必要があります。</li> </ul>		
	<p>今後の方向性（具体策）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座等の学習機会の利用を進めるため、SNS等を活用した情報発信に取り組むとともに、地域団体の集まりをはじめ、学童保育所の代表者会議やサロン連絡会等で実際に活用事例を紹介し、各事業を知ってもらう機会を作ります。</li> </ul>		

事業名	社会教育機能向上事業	決算額	-
18	<p>事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館職員研修会については、地区公民館の職員を対象に、Zoomの操作方法などオンラインの研修を実施するなど職員のスキルアップを図ることを目的に、10回の研修会を開催しました（新型コロナ感染拡大の観点からオンラインでの研修1回を含む）。</li> <li>・社会教育関係職員研修会については、社会教育関係職員を対象に、社会教育の今後の役割の理解を促進するとともに、オンラインのスキルの向上を図ることを目的に、1回開催しました。</li> <li>・新任公民館職員研修会については、新任の公民館職員を対象に、社会教育公民館の役割についての基礎的な知識の習得のため、研修会を1回開催しました。</li> <li>・館長向けの研修を1回開催しました。</li> <li>・新任社会教育関係職員研修会については、新任の社会教育関係職員を対象に、市民協働部各課の取組みを知ること、部内の連携促進を図ることを目的に、研修会を1回開催しました。</li> </ul>		
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育に携わる職員が一層スキルアップできるよう、研修の充実を図る必要があります。</li> </ul>		
	<p>今後の方向性（具体策）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任公民館職員研修会を年間通して段階的にスキルアップできるプログラムで実施します。</li> <li>・社会教育関係職員向けのオンライン関連の研修を実施します。</li> </ul>		

事業名	地区公民館等整備事業	決算額	-
19	<p>事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設維持管理計画に基づき、手鎌地区公民館の屋上等の防水工事、内部改修工事、非常放送設備の更新、エレベーターの更新を行いました。</li> <li>・新型コロナ感染防止の観点から、各地区公民館のトイレの洋式化、自動水栓化等の改修を行いました。</li> <li>・このほか、来館者が安心・安全に施設を利用できるように、必要に応じた施設修繕を行いました。</li> </ul>		
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7地区公民館のうちの6館及びりフレスおおむたはすでに建設から20年以上を経過しており、経年劣化による雨漏り等の不具合が多発しています。</li> </ul>		
	<p>今後の方向性（具体策）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設維持管理計画に基づく計画的な改修等を実施します。</li> </ul>		

20	事業名	青少年健全育成事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街頭指導活動を延べ1,238人で281回、青パト巡回を延べ465人で238回行い、指導された少年の数は80人でR2年度と比べて180人の減少となりました。指導少年数減少は、新型コロナウイルスの影響もあると考えます。また、有害環境浄化活動として、コンビニエンスストアや書店など89店舗への要望活動及び立入調査を7月と11月に実施しました。</li> <li>・非行少年者率については、昨年に引き続き、国・県を下回り、過去最低を更新しています。</li> <li>・相談事業では、悩みを持つ青少年自身のみならず保護者等からも相談を受け指導助言を行っています。なお、電話相談については、利便性向上を目的に、R4年1月より24時間365日対応している福岡県教育委員会の「子どもホットライン24」に一本化しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非行少年数が減少しているものの、引きこもりや不登校、SNSなどのネット上でのいじめや犯罪など、新たな課題への対応が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性 (具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSのネット利用の適正化の周知・啓発について、関係機関と連携を図り、取組みを強化します。</li> </ul>		

# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		高校生まちづくり体験事業（次世代を担う人づくり事業）				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
参画した高校の数	目標値(校)	5	6	7	8	R5年度に市内の高校・高等専門学校全校の参画を目指し、年1校ずつ増加
	実績値(校)	6	4			
	達成度(%)	120.0	66.7			
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生まちづくり体験事業推進協議会 本事業を支援することを目的として、青少年団体等から組織する協議会を開催しました。</li> <li>ふるさと魅力発見ウォーク コロナ禍の中でしたが、「青春（アオハル）Walk」と称して事業を実施しました。ポスターやチラシ等の活用により市内の高校等全校へ事業の周知を図り、事業を企画・運営するスタッフを募集し、10人（市内の高校等に通う生徒4校10人）の参加がありました。 参加した高校生の企画・立案により、大牟田の新たな魅力発見にもつながりました。企画途中での緊急事態宣言発令により、事業を縮小する状況となりましたが、高校生スタッフと実施可能なコースやレクリエーションを再協議し、12月に高校生10人と、小・中学生の参加者9人で実施することができました。</li> <li>総合発表会（新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施）</li> </ul>						
決 算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	604 千円	302				302
(次年度への繰越)	千円)					
課 題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生個人の参加は募ることができましたが、コロナ禍の中、学校としての参画が難しい状況が続いています。また、高校生と地域の方々との交流の機会等の提供も困難な状況となっています。このような状況において、高校生等の達成感やふるさとへの愛着を高めることができるような事業の組み立てが必要となっています。</li> </ul>						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業は、高校生等の達成感やふるさとへの愛着を高めること、地域のために自らチャレンジできる人づくりを目的としているため、市内の高校等に対してその趣旨を説明し、事業への理解を深めることで、事業の参画校が増えるよう取り組みます。</li> <li>企画スタッフを確保するため、ポスターやチラシ、広報等の活用に加え、青少年団体等にも呼びかけるなど、事業の更なる周知を図ります。</li> <li>高校生等が参加意義を見つけることができるよう事業の組み立てを支援します。</li> </ul>						

事業名		学校 ESD 支援事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
支援を行った小・中・特別支援学校の数	目標値(校)	4	6	8	10	R5年度に小学校7校、中学校特別支援学校3校の支援を目指し、年2校ずつ増加
	実績値(校)	7	7			
	達成度(%)	175.0	117.0			
<b>事業の実施状況</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の大人が子どもたちに絵手紙の素晴らしさを伝えるボランティア講座を実施し、子どもたちが描いた絵手紙を校区内の高齢者に届ける取組みを実施しました。【天の原小学校、玉川小学校、宮原中学校】</li> <li>地域、学校が連携し種から花を育てることにより、地域の絆を深めました。【銀水小学校】</li> <li>地域の史跡や文化財等を知り発表することにより児童の地域への愛着を深めました。【羽山台小学校（学校 ESD 支援モデル校区）、駿馬小学校（新型コロナの影響により中止）】</li> <li>学校職員に公民館や地域のことを説明し、ESD や総合学習のヒントとなることを目指した研修会を実施しました。【羽山台小学校】</li> <li>小学校の海洋教育及び野外活動として実施されるカヌー乗船体験学習を支援しました。【駿馬小学校、天領小学校、羽山台小学校】</li> <li>このほか児童・生徒の学習活動の成果発表の場として、各地区公民館のロビー等を活用した展示発表を実施したほか、みなと小学校児童が作成した「防災マニュアル」を三川地区公民館において配布しました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		<b>国</b>	<b>県</b>	<b>起債</b>	<b>その他</b>	<b>一般財源</b>
決算額	17 千円					17
(次年度への繰越)	千円)					
<b>課題</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>地区公民館の機能や役割について、学校への周知が十分ではないため、提供できる支援について周知を図る必要があります。</li> <li>小学校での実施が中心となっており、中学校への取組みが必要です。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のニーズを把握するため、学校が取り組む ESD について理解を深めることが必要です。また、学校職員を対象とした事業の説明機会を設け、学校 ESD の支援に取り組みます。</li> <li>学校に提供できる支援を明確にするため、地区公民館ができることをメニューにして提示するなど、わかりやすい仕組みを構築します。</li> </ul>						

# 評価・検証シート【施策】

令和 3 年度

【所管部局】市民協働部

施策名	(第1編第5章) スポーツを通して生きがいに満ち、活気にあふれるまち
-----	---------------------------------------

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)

誰もが、ライフステージに応じてスポーツに親しみ、楽しむことで、生涯にわたり心身ともに健康で、活気にあふれた生きがいある生活を営むことができるまちを目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
1年間のうち、週1回以上の運動・スポーツの実施率	目標値 (%)	50.0	50.0	50.0	R5年度の目標値は、新スポーツ推進計画の中で設定	市スポーツ振興計画に掲げる目標値を基に設定。 [現状値:41.6% (H30年度実績)]
	実績値 (%)	38.5	40.2			
	達成度 (%)	77.0	80.4			

## 2. 実行(Do) → 構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check &amp; Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- ・スポーツ振興計画では、「誰もがどこでも気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり」、「活気あるスポーツ活動を支える仕組みづくり」、「スポーツがしやすい環境づくり」の3つの基本施策のもと、各種事業を実施しています。
- ・事業実施に当たっては、スポーツ都市宣言推進協議会、体育協会、スポーツ推進委員協議会等と連携し、コロナ禍の中でも、感染防止策を十分に講じた上で各種スポーツ行事を開催するなど、可能な範囲で各種スポーツ活動の機会を提供しました。
- ・成果指標については、40.2%と、前年度と比較して1.7ポイント増となりましたが、スポーツ振興計画に掲げる目標値を達成することはできませんでした。
- ・目標値を達成できなかった要因として、コロナ禍における外出等の自粛や、緊急事態宣言の発出等により施設利用や対外試合等が制限された時期があったことなどが影響し、運動・スポーツの機会が減少したことが考えられます。
- ・引き続き目標達成に向けて、日頃からスポーツや運動を行っていない市民への情報提供や、実施に向けたアプローチが必要と考えます。

(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)

- ・スポーツ・運動を普段していない人に向けて、スポーツ・運動の持つ効果を発信することにより、関心を持ってもらい、スポーツに気軽に参加できるような機会づくりを行います。
- ・市民の誰もがどこでも、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るい生活を送るためには、さまざまな市民団体等との連携が必要であり、また、幅広い市民がスポーツに触れることができるよう、さまざまな機会を捉え、各種事業のタイムリーな情報提供を行い、参加者の増を図ります。
- ・コロナ禍にあっても、市民が安全・安心にスポーツや運動に取り組むことができるよう、引き続き感染防止対策を進めます。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンとして、引き続き、ジョージアとアフガニスタンとの交流事業等を行うことで、市民にスポーツの魅力を発信し、スポーツ振興、地域活性化を図ります。
- ・延命公園周辺地区都市再生整備計画に基づき、「(仮称)総合体育館等実施設計及び新築工事」を推進します。

(市民協働部長 坂井 尚徳)

## 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R3 目標 R3 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり							
1	市民スポーツ推進事業	スポーツ推進室	人口に占める市民スポーツ教室・大会等への参加率	%	3.80 2.97	やや遅れ	継続
2	地域スポーツ活動推進事業	スポーツ推進室	スポーツ推進委員が企画・運営等支援する地域スポーツ行事数	件	76 35	遅れ	継続
3	(再掲)子どもの体力向上事業	スポーツ推進室	半年後に運動・スポーツを週1回以上継続して実施している子どもの割合	%	100 -	遅れ	継続
[視点2] スポーツ活動を支える仕組みづくり							
4	地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ推進室	総合型地域スポーツクラブ設置数	箇所	2 1	遅れ	改善
5	スポーツ団体等との連携によるスポーツ活動支援事業	スポーツ推進室	チャレンジデー参加率	%	70.0 68.6	順調	継続
6	競技スポーツ振興・支援事業	スポーツ推進室	県民スポーツ大会の順位	位	5 -	遅れ	継続
7	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業	スポーツ推進室	ホストタウン交流事業実施件数	件	2 2	順調	継続
[視点3] スポーツがしやすい環境づくり							
8	スポーツ施設整備事業	スポーツ推進室	当該年度の施設改修等予定実施率	%	100 100	順調	継続
9	【重点】(仮称)総合体育館整備事業	スポーツ推進室	進捗管理	段階	2・3 2	順調	継続
10	指導者育成事業	スポーツ推進室	研修会参加者数	人	200 21	遅れ	継続

※「スポーツ推進計画策定事業」は評価対象から除外しています。

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

事業名	市民スポーツ推進事業	決算額	-
1	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者の必須事業として、初心者などを対象としたスポーツ教室や大会等を開催し、運動・スポーツに親しむ機会を提供しました。</li> <li>R2年度に引き続き、R3年度も新型コロナの影響により、市民スポーツ教室と市民スポーツ大会の一部を中止し、スポーツ市民の祭典は規模を縮小して開催しました。</li> <li>参加者数は、市民スポーツ教室が177人、サマースポーツ教室が293人、市民スポーツ大会が1,711人、スポーツ市民の祭典が1,070人（開会式は約2,000人）でした。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍にあっても、参加者が安全・安心にスポーツや運動に取り組むことができるよう、引き続き取り組む必要があります。</li> <li>日頃からスポーツや運動をしていない人への情報提供やアプローチが必要と考えます。</li> </ul>	
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、指定管理者と連携して、スポーツや運動を普段していない人に向けて、スポーツや運動の持つ効果を発信することにより、関心を持ってもらい、スポーツや運動に気軽に参加できるような機会づくりを行います。</li> <li>様々な機会を捉え、各種事業のタイムリーな情報提供を行い、参加者の増を図ります。</li> </ul>	

事業名	地域スポーツ活動推進事業	決算額	-
2	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域におけるスポーツ行事等では、各校区のスポーツ推進委員が主体となり、各校区で企画・運営等を行っていますが、地域元気アップスポーツ事業については、新型コロナの影響により、スロージョギング教室のみを開催しました（参加者数24人）。</li> <li>スポーツ推進委員の資質向上を図るために、各種研修会（南筑後地区及び県主催の研修会への派遣を含む）を予定していましたが、新型コロナの影響により、すべて中止しました。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍における地域スポーツ行事のあり方を検討する必要があります。</li> <li>スポーツ推進委員の高齢化が進んでいることから、世代交代による若返りが必要であるとともに、女性委員の積極的な登用を進めることが必要です。また、委員定数を満たしていないことから、人材の確保が急務です。</li> </ul>	
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、スポーツ推進委員が主体となった地域スポーツ行事等の運営支援を行うとともに、コロナ禍におけるスポーツ行事のあり方については、スポーツ推進委員協議会と具体的な取組みについて協議を進めます。</li> <li>スポーツ推進委員の人材確保のため、地域への働きかけを行います。</li> </ul>	

事業名	子どもの体力向上事業【再掲：同編第4章 視点1参照】
3	

事業名	地域スポーツクラブ育成・支援事業	決算額	-
4	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市唯一の総合型地域スポーツクラブ「右京ふれあい健康クラブ」は、卓球・バドミントン等の毎週の活動をはじめ、地域に密着した事業を行っています（参加者数約400人）。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>右京ふれあい健康クラブの安定した運営を支援していく必要があります。</li> <li>右京以外の地域・校区にも広げていくために、総合型地域スポーツクラブの魅力を発信していく必要があります。</li> </ul>	
	今後の方向性（具体策）	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、右京ふれあい健康クラブの運営支援を行い、クラブの活性化と会員拡充を図ります。</li> <li>他の地域・校区でもクラブ設立の機運が高まるよう、情報提供等を行います。</li> </ul>	



## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

5	事業名	スポーツ団体等との連携によるスポーツ活動支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ都市宣言推進協議会と連携し、市民スポーツ大会やスポーツ市民の祭典を開催しました。</li> <li>・大牟田市体育協会と連携し、おおむた市民体育大会を開催しました。R3年度は、新型コロナウイルスの影響により、20大会中、6大会を中止としました。</li> <li>・スポーツ都市宣言推進協議会や大牟田市体育協会等と連携し、チャレンジデーに取り組みました。R3年度は、新型コロナウイルスの影響により、当初予定の時期を変更して実施しました。</li> <li>・中学生の体育活動の発展と技術向上を図るため、大牟田市中学校体育連盟に対し、運営及び大会出場に係る費用の一部を負担しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者が多数に及ぶことから、コロナ禍においては会議などの対面開催が難しい場合があります。リモート等の新たな手法等、実施方法を工夫する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体等との連携の意義を認識し、引き続き、スポーツ都市宣言推進協議会等と連携し、活動を支援します。</li> </ul>		

6	事業名	競技スポーツ振興・支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域スポーツ大会の開催費用の一部を補助し、支援を行いました。R3年度は新型コロナウイルスの影響により、一部の大会が中止されました。</li> <li>・全九州都市対抗陸上競技大会は、R2年度は新型コロナウイルスの影響により中止となりましたが、R3年度は開催されました。</li> <li>・福岡県民スポーツ大会(夏季、秋季、冬季)は、R3年度は新型コロナウイルスの影響により、すべて中止となりました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあっても、感染防止策を十分に講じた上で安全・安心に大会が開催されるよう、引き続き、検討を続ける必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全九州都市対抗陸上競技大会などのトップレベルの大会や広域スポーツ大会は、市外からも多くの参加があり、スポーツ振興とともに、本市の活性化にもつながることから、引き続き支援します。</li> <li>・県民スポーツ大会(秋季)については、総合順位の5位以内を目標に、選手層の充実につながる取組みを模索します。</li> </ul>		

7	事業名	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業	決算額	18,682
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020オリンピック聖火リレーは、5月11日に本市内で実施される予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、中止となりました。</li> <li>・アフガニスタンとのホストタウン事業として、東京2020オリンピック競技大会に出場する陸上競技選手団の事前キャンプの受け入れを行いました。同パラリンピック競技大会に出場する陸上競技及びテコンドー選手団の事前合宿の受け入れは、アフガニスタンの国内情勢の緊迫化に伴い、中止となりました。</li> <li>・ジョージアとのホストタウン事業として、東京2020オリンピック競技大会に出場する柔道選手団の事前キャンプは中止となりましたが、交流事業の一部は実施しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の交流事業の継続に当たっては、コロナ禍及び国際情勢の推移を注視する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンとして、引き続き、ジョージアとアフガニスタンとの交流事業等を行うことで、市民にスポーツの魅力を発信し、スポーツ振興、地域活性化を図ります。</li> </ul>		

## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

8	事業名	スポーツ施設整備事業	決算額	—
	事業の実施状況	・御大典記念グラウンドトイレ改修工事、同更衣所棟改修工事、延命球場観覧席防水工事、同空調設備更新工事、同トイレ改修工事などを実施しました。		
	課題	・本市のスポーツ施設は総じて老朽化が進んでおり、計画的な維持補修に加え、緊急に補修を要する事案が増加傾向にあります。 ・新型コロナ感染対策も必要です。		
	今後の方向性(具体策)	・利用者の安全と、各種大会運営に支障が出ないように、適切な補修・整備を行う必要があり、国・県の財源をはじめ、スポーツ振興くじ等の財源も活用しながら進めます。		

9	事業名	【重点】(仮称)総合体育館整備事業<6. 重点事業参照>		
---	-----	------------------------------	--	--

10	事業名	指導者育成事業	決算額	—
	事業の実施状況	・指定管理者の必須事業として、スポーツ少年団の指導者を対象に、安全なスポーツ指導並びに資質の向上を図ることを目的として研修会を実施しました(参加者数21人)。また、スポーツ医科学研修会を実施予定でしたが、新型コロナの影響により中止しました。		
	課題	・コロナ禍における事業の実施方法について、工夫・検討が必要です。		
	今後の方向性(具体策)	・指導者の資質向上は、青少年の育成とスポーツ振興に寄与することから、継続して取り組みます。		

## 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		(仮称) 総合体育館整備事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
進捗管理 1 段階：基本設計策定 2 段階：DB 事業者選定 3 段階：実施設計 4 段階：建設工事	目標値(-)	1 段階	2 段階 3 段階	4 段階	4 段階	R5 年度の総合体育館完成を目指し、必要な事務作業を実施します。
	実績値(-)	1 段階	2 段階			
	達成度(%)	100	80			
事業の実施状況						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に公募型プロポーザルによりデザインビルド事業者を選定し、9月に実施設計・新築工事に係る契約を取り交わしました。</li> <li>・10月から実施設計及び準備工事に着手しています。</li> <li>・地元説明会等での要望を実施設計に反映させるため、実施設計期間をR4年6月まで延長しました。なお、工期の変更はありません。</li> </ul>						
決算		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	340,325 千円	162,731		152,000		25,594
(次年度への繰越	350,332 千円)					
課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資材や原油の価格高騰の影響を受け、増額変更契約の可能性ががあります。</li> </ul>						
今後の方向性(具体策)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・増額変更契約が必要となった場合、議会への説明や所要の議決を経るなど、適切な事務手続きを行います。</li> </ul>						

# 評価・検証シート【施策】

令和 3 年度

【所管部局】市民協働部、企画総務部

施策名	(第1編第6章) 文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち
-----	----------------------------------

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)

郷土の歴史や遺産を大切に継承・活用し、郷土を愛する気持ちと誇りをはぐくむとともに、市民が文化芸術を通して心豊かで充実した生活を送ることができる文化の薫るまちを目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
1年間に、ホールや施設などで文化芸術を直接鑑賞したことがある人の割合	目標値 (%)	80.0	80.0	80.0	80.0	文化庁「文化芸術推進基本計画」に掲げる目標値を基に設定(R2年80.0%)。 [現状値:57.9%(H30年度実績)]
	実績値 (%)	44.5	38.2			
	達成度 (%)	55.6	47.8			

## 2. 実行(Do)→構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check &amp; Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- 文化事業の開催等を幅広く周知するため、広報おおむたやホームページ、愛情ねっと等を活用するとともに、チラシやポスターを公共施設に配布しました。また、本市の特色を活かした文化芸術事業として、押し花を活用したワークショップや展覧会を実施し、本市の魅力を市内外へ発信しました。
- 大牟田市民文化のつどい事業は年間で19事業を予定していましたが、新型コロナの影響により、4事業が中止となりました。また、文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業についても中止となりました。このように、新型コロナの影響で各種イベント等が中止・延期となり、文化芸術活動への参加の機会が減少したことが、指標の実績値に影響した可能性があります。
- 新しい生活様式を踏まえたイベントの実施が増加し、R2年度に比べ文化芸術に触れる機会は、戻りつつありますが、複数回にわたる新型コロナの感染拡大なども指標の実績値に影響を与えた可能性があります。
- 郷土の歴史への興味関心を高め、郷土を愛する気持ちと誇りを育む事業として、毎年行っているバス見学会や文化財に関する講座について、感染拡大防止にも配慮しながら継続して実施したほか、近代化遺産一斉公開のコンパクトな形での実施や、宮原坑敷地内へ映像やパネルで世界遺産を説明するための展示施設を設置しました。

(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)

- R元年度に策定した大牟田市文化芸術振興プランに基づき、文化芸術を通して人々が相互に尊重しながら多様性を認め合う心豊かなまちを実現するため、さまざまな施策に取り組みます。特に本計画期間にあっては次世代を担う人づくりに力を入れており、文化芸術を通して子どもや若者の豊かな感性を育み、心豊かでたくましい青少年の育成を図る施策を推進します。
- 文化芸術団体や大牟田市文化振興財団等と連携し、十分な感染防止策を講じた上で、多くの市民に安心して文化芸術に触れてもらえるよう取り組みます。

(市民協働部長 坂井 尚徳)

- 世界遺産をはじめとする近代化遺産や文化財の保存・活用により、まちの歴史や文化について、多くの市民が理解を深め、まちへの愛着と誇りにつなげていくことと併せ、世界遺産の価値を広く内外に周知し、その魅力に触れてもらえるよう取り組みます。

(企画総務部長 森 智彦)

## 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R3 目標 R3 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] まちの歴史や文化を知る・学ぶ							
1	世界遺産保存・整備事業	世界遺産・文化財室	「保存・公開・活用計画」の進捗率 (計画予算ベース)	%	25.0 16.0	やや遅れ	改善
2	世界遺産理解促進事業	世界遺産・文化財室	世界遺産価値の理解度 (市民アンケート)	%	45.0 78.8	順調	継続
3	近代化産業遺産保存活用事業	世界遺産・文化財室、総合政策課	三川坑跡の来場者数	人	14,000 13,002	順調	継続
[視点2] 文化芸術事業の充実							
4	多様な文化芸術提供事業	生涯学習課	大牟田市民文化のつどい参加者数	人	14,000 7,310	遅れ	改善
5	【重点】文化芸術体験を通した子ども・若者育成事業	生涯学習課	大牟田への愛着が以前より深まった参加者の割合	%	80.0 95.5	順調	継続
[視点3] 文化芸術の環境づくり							
6	市民(民間)団体等による文化芸術活動支援事業	生涯学習課	共催・後援数	件	96 41	遅れ	継続
7	文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業	生涯学習課	課題を解決するためには他者を尊重したり支えあうことが重要だと理解した参加者の割合	%	90.0 —	遅れ	継続
8	文化芸術による交流創出事業	生涯学習課	文化芸術による交流事業を通して他者を受け入れる気持ちが高まった参加者の割合	%	80.0 —	遅れ	継続
9	文化施設整備事業	生涯学習課	当該年度に予定していた施設修繕の実施率	%	100 100	順調	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

事業名	世界遺産保存・整備事業	決算額	62,381
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮原坑や三池炭鉱専用鉄道敷跡について、内閣官房や世界遺産協議会、福岡県等と連携を図りながら、園路や外柵の改修など適切に保存・管理を行いました。</li> <li>令和2年7月豪雨災害で被災した専用鉄道敷跡の災害復旧工事が完了したほか、世界遺産保存管理活用計画に掲げる、宮原坑第二巻揚機室の耐震化について、工事着工に向けた準備を行いました。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年7月豪雨災害により、専用鉄道敷跡において被害が発生したため、「保存・公開・活用計画」に遅れが生じており、防災減災の視点も踏まえた整備を行っていく必要があります。</li> </ul>		
今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国や県等の補助事業の活用など、可能な限り有利な財源を確保していくとともに、「保存・公開・活用計画」に掲げる公開活用の整備のみならず、防災減災の観点も踏まえた計画の時点修正を行いながら、よりよい整備や保存・管理に取り組みます。</li> <li>世界遺産の管理については、民間活力の導入も含め、効率的・効果的な管理手法を検討します。</li> </ul>		

事業名	世界遺産理解促進事業	決算額	2,129
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮原坑敷地内に、映像やパネルで世界遺産を説明するための展示施設を設置し、来場者の世界遺産に対する理解促進に取り組みました。</li> <li>子どもたちの世界遺産への理解促進に向け、小学生を対象としたバス見学会(全小学校の6年生対象)や出前講座を継続して行ったほか、本市と北九州市、中間市の小学校がオンラインで交流するキッズアカデミー事業や、三池工業高校とのプラントの制作、駿馬小学校、宮原中学校、はやめ幼稚園等との花植えなど、幼稚園・小学校・中学校・高校との連携事業を実施しました。</li> <li>近代化遺産一斉公開について、感染拡大防止にも配慮しながら「炭鉱(ヤマ)の“こまか”祭典」として、会場を三池港周辺に絞りコンパクトな形で実施したほか、参加型DIYによるデビーポンプ室の遺構表示の設置や、各種団体からの依頼に応じ、出前講座を実施しました。</li> <li>ドローン撮影による新たな理解促進映像を作成しYouTubeによる動画配信等を行いました。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの対策を講じながら、オンラインや映像等を活用した事業の組み立てを検討していく必要があります。</li> </ul>		
今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「保存・公開・活用計画」の考え方にに基づき、引き続き参加型のDIY整備を行うなど、広く市民が参画しやすい取組みを進めます。</li> <li>同じ三池エリアである熊本県荒尾市や宇城市、また福岡県や隣接する佐賀エリアと連携し、来訪者の理解促進を広域的に行います。</li> <li>三池エリアのビジターセンターである石炭産業科学館のガイダンス機能を活用し、市内に点在する世界遺産をつなぎ合わせることで、来訪者の回遊性を高めます。</li> <li>動画配信やオンラインによる情報発信に取り組み、世界遺産の価値を広く内外に周知し理解促進を図ります。</li> </ul>		

事業名	近代化産業遺産保存活用事業	決算額	19,669
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標は未達成でしたが、公開日数123日(昨年度105日)、来場者数は105.7人/日(74.4人/日)といずれも昨年度より増加しています。新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、炭鉱(ヤマ)の祭典を小規模開催とした他、こいのぼりやイルミネーションによるイベントを行いました。</li> <li>第二巻揚機室改修工事は、令和2年7月豪雨災害や新型コロナウイルスの影響により遅れています。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントが定着し、来場者数も増えていますが、三川坑跡の歴史的価値が伝わる仕掛けが必要です。</li> </ul>		
今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、DIYなどの市民参加型イベントの再開を検討します。</li> <li>三川坑跡の建物改修を進め、安全に見学できるエリアを拡大します。加えて、歴史的価値を伝えるための表示を整備します。</li> </ul>		

## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…

4	事業名	多様な文化芸術提供事業	決算額	600
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市が押し花文化のふるさとであることを市内外に広くアピールするため、押し花を体験するワークショップと展覧会を実施しました。</li> <li>大牟田市民文化のつどい事業をR3年度は19事業計画していましたが、新型コロナの影響により4事業中止し、15事業の実施となりました(R2年度4事業実施)。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>会員減少等により一部の文化芸術団体においては、単独での発表会開催が難しい状況です。</li> <li>長引くコロナ禍においても安心して活動ができるような支援が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化や会員減少に直面する文化芸術団体について、単独での発表会の開催が難しい場合は、合同での開催に向けた仕組みづくりを進めます。</li> <li>新型コロナ対策の負担を軽減する取組みを継続して実施します。</li> </ul>		

5	事業名	【重点】文化芸術体験を通じた子ども・若者育成事業<<6. 重点事業 参照>>		
---	-----	--	--	--

6	事業名	市民(民間)団体等による文化芸術活動支援事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術の振興に資する事業に対し後援等(41件)を行いました。新型コロナの影響により例年より少ない状況です。</li> <li>本市の文化芸術団体の連合体である大牟田文化連合会に対し、運営費補助を行いました。</li> <li>福岡県中学校文化連盟に対し、負担金を交付しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術団体の高齢化や会員減少に対する継続した支援が必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術団体のニーズを把握し、文化芸術活動の継承を支援します。</li> <li>後援等実施した文化芸術事業について、団体のニーズに合った効果的な広報等に取り組みます。</li> </ul>		

7	事業名	文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>著名な劇作家を講師として招き、演劇の手法を活用したコミュニケーションのワークショップと、多様性への理解や合意形成能力などを育むことの重要性についての講演会を計画していましたが、新型コロナの影響により中止しました。(事業が実施できなかったため、アンケートは未実施。)</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生だけではなく、高校生などの若者や大人にも体験できる取組みが必要であるとともに、学んだことを活かせるよう継続した取組みが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>羽山台小学校における小学生を対象とした演劇ワークショップは継続して実施します。また、高校生や子育て世代等の大人を対象にワークショップや講演会を実施し、対話を深め多様性を認め合うことの重要性について理解する取組みを進めます。</li> </ul>		

8	事業名	文化芸術による交流創出事業	決算額	—
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>有明圏域定住自立圏共生ビジョンに基づき従前より実施している有明美術展は、新型コロナの影響により中止となりました。また、圏域4市2町の担当で構成する文化振興会議は開催し、次年度の共同文化事業の実施に向けた協議を行いました。</li> <li>オリンピック・パラリンピック開催に合わせ、食文化を体験して多様性の理解を深める事業を計画していましたが、新型コロナの影響により実施できませんでした(事業が実施できなかったため、アンケートは未実施。)</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>有明圏域内外への情報発信や、交流を促進する新たな共同文化事業を検討する必要があります。</li> <li>多様性を認め合う社会の実現にも寄与する文化芸術事業を実施する必要があります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>有明圏域の文化事業を圏域外で紹介する共同事業を実施します。</li> <li>関係部局と連携し、多様な価値観や文化への理解を進める事業を組み立てます。</li> </ul>		

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

9	事業名	文化施設整備事業	決算額	-
	事業の 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大牟田文化会館及びカルタックスおおむた両施設とも老朽化が進んでいることから維持補修に取り組みました。</li> </ul>		
	課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の長寿命化を図るためには、今後も計画的な予防保全が必要です。</li> <li>・大牟田文化会館の舞台設備等について、文化ホールとしての機能を維持するためには、計画的な設備の更新が必要です。</li> </ul>		
	今後の 方向性 (具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設維持管理計画等に基づき、今後も両施設の適切な維持管理に取り組みます。</li> </ul>		



# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		文化芸術体験を通した子ども・若者育成事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
大牟田への愛着が以前より深まった参加者の割合	目標値(%)	80.0	80.0	80.0	80.0	「将来大牟田市に住みたいと思うか」との問いに、「思う」と「わからない」の合計が約80%という若者へのアンケートの結果を参考に設定
	実績値(%)	—	95.5			
	達成度(%)	—	119.4			
<b>事業の実施状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわくシティ基金を活用し、高校生が小中学生にダンスを教えるワークショップや市内高校ダンス部のステージ発表のほか、小学生から高校生を対象に市内外から参加者を募ったダンス大会を開催する予定でしたが、新型コロナの影響によりR4年度に延期となりました。</li> <li>・文化芸術活動者を学校へ派遣し、学校教育における文化芸術の鑑賞、体験等の機会を提供する事業を実施しました。事業実施件数は前年度より5件増加し10件となりましたが、コロナ禍前の水準には未だ回復していません。</li> <li>・子どもたちが劇場等に出向いて質の高い文化芸術を鑑賞・体験する「子どもアートスクールツアー」を実施しました。R3年度はミュージカルを鑑賞するツアーを実施しました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	620 千円	262			263	95
(次年度への繰越)						
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが安心して事業に参加できるよう、新型コロナの感染防止対策を講じた事業実施方法の工夫が必要です。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの感染防止対策を徹底して、子どもたちが安心して文化芸術活動に参加できるよう、関係団体と連携して事業を実施します。</li> </ul>						

## 評価・検証シート【施策】

令和 3 年度

【所管部局】市民協働部、教育委員会

施策名	(第1編第7章) 一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち
-----	---

## 1. 計画(Plan)

意図(どういう状態になることを狙っているのか)

市民一人ひとりの人権が尊重され、互いに認め合える、あらゆる差別のない、男女が生き生きと暮らすことができるまちの実現を目指します。

指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
人権が尊重されていると思う市民の割合	目標値 (%)	67.0	67.0	67.0	67.0	現状値を踏まえ67.0%以上を目指す。 [現状値:61.5%(H30年度実績)]
	実績値 (%)	68.3	66.9			
	達成度 (%)	101.9	99.9			
性別による固定的な役割分担意識に同感しない市民の割合	目標値 (%)	65.0	65.0	65.0	R5年度の目標値は、男女共同参画プランの中で設定	市第3次男女共同参画プランに掲げる目標値を基に設定。 [現状値:57.2%(H28年度実績)]
	実績値 (%)	64.3	65.0			
	達成度 (%)	98.9	100			

## 2. 実行(Do)→構成事業の実施による

## 3. 検証・評価と今後の方向性(Check &amp; Action)

(1) 指標達成度に対する要因分析(①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

- ・人権が尊重されていると思う市民の割合は昨年度の68.3%から1.4ポイント減少し、66.9%となりましたが、目標値に対する達成度は99.9%でした。人権・同和問題啓発推進事業では、人権フェスティバルをはじめとする各種啓発事業を実施し、人権擁護推進事業では、人権擁護委員が行う人権相談及び啓発活動へ支援等を行っているため、これらが指標の実績値に影響していると考えます。
- ・性別による固定的な役割分担意識に同感しない市民の割合は、昨年度の64.3%から0.7ポイント増加し65.0%となり、目標値に対する達成度は100%でした。男女共同参画に関する意識啓発事業では、性別による固定的な役割分担意識の解消に向けて、一定の効果が上がっているものと考えられます。
- ・近年は、人権侵害や男女共同参画に関する話題がマスコミ等を通じて注目を受けることもあります。このことは市民の意識に大きく影響し、指標達成にも一定の影響を及ぼす可能性がある一方で、これらの問題を考えていくことを通じて意識向上にもつながっていくものと考えます。

(2) 今後の方向性((1)の要因分析を踏まえ、施策目的達成に向けた方針を示す)

- ・人権・同和問題啓発推進事業や人権擁護推進事業においては、これまで継続的な事業実施により目的達成に努めてきました。H28年度施行された人権3法の周知・啓発に努めるとともに、R元年12月に改正施行した「大牟田市部落差別をはじめあらゆる差別の撤廃をめざす人権擁護条例」に基づき、あらゆる差別の解消をめざすため、市民一人ひとりの人権が大切にされる人権尊重のまちづくりをさらに進めます。また、新型コロナに関連した不当な差別、偏見、いじめ及び誹謗中傷が生じることがないように啓発に取り組みます。
- ・「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(H27年制定)及び「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律」(H26年改正)を反映した第3次おおむた男女共同参画プランを推進していくことにより、周知・啓発等に取り組みます。

(市民協働部長 坂井 尚徳)

- ・人権・同和教育推進事業及び人権・同和教育連携事業においては、大牟田市人権・同和教育研究協議会(市同研)等の関係団体と連携を図りながら、人権問題に対する理解と認識を深める取組みを進めました。今後とも人権・同和教育諸事業を推進します。

(教育委員会事務局長 桑原 正彦)

## 4. 施策推進の視点と各構成事業

No.	事業名	所管課	成果指標等			評価結果	
			指標名	単位	R3 目標 R3 実績	結果検証 ・分析	今後の 方向性
[視点1] 人権に関する教育・啓発の推進							
1	【重点】人権・同和問題啓発推進事業	人権・同和・男女共同参画課	人権イベントにおいて初めて参加した人の割合	%	41.0 49.6	順調	継続
2	【重点】人権・同和教育推進事業	人権・同和教育課	人権尊重意識の醸成度	%	100 93.1	順調	継続
3	人権・同和教育連携事業	人権・同和教育課	市同研参加者の人権意識が向上した割合	%	100 97.0	順調	継続
[視点2] 人権擁護の推進							
4	人権擁護推進事業	人権・同和・男女共同参画課	差別や偏見がないと思う市民の割合	%	40.0 37.0	順調	継続
[視点3] 男女がともに生きる社会への意識づくり							
5	男女共同参画に関する意識啓発事業	人権・同和・男女共同参画課	社会全体の中で「男女の地位が平等である」と回答した市民の割合	%	40.0 13.3	遅れ	改善
6	女性に対する暴力防止及び被害者支援事業	人権・同和・男女共同参画課	DV 相談窓口の認知度	%	70.0 82.0	順調	継続
[視点4] 男女がともに参画する機会の確保							
7	女性参画促進事業	人権・同和・男女共同参画課	審議会等委員への女性の登用率	%	42.0 33.3	やや遅れ	継続

# 評価・検証シート【事業】

## 5. 構成事業

【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

1	事業名	【重点】人権・同和問題啓発推進事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	---------------------------------

2	事業名	【重点】人権・同和教育推進事業<<6. 重点事業 参照>>
---	-----	-------------------------------

3	事業名	人権・同和教育連携事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・同和教育研究実践交流会、課題別委員会「子ども就学支援」及び人権連続講座を実施しました。「おおむた子ども支援ガイドブック」は500冊を作成し、子どもの育ちや学び、家庭にかかわる支援者がより広く活用できるようにしました。また、人権連続講座については、「疾病と人権」をテーマに開催しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を開催するにあたり、開催テーマに対する理解や認識を深めてもらうためには、初めて参加する人の割合を増やすことが重要となるため、さらなる掘り起しが必要です。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を開催する際には、幅広い市民の参加が得られるように周知することが重要となります。このため、周知方法についても広報おおむたやホームページ、SNS等を活用するほか、小・中・特別支援学校の校長会や民生委員・児童委員協議会等の各種団体に直接働きかけを行うなど、広く周知・啓発していきます。また、「おおむた子ども支援ガイドブック」についても、毎年度、各種支援制度の改正などに対応し、改訂版を発行します。</li> </ul>		

4	事業名	人権擁護推進事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権擁護委員や県の関係機関と連携し、7月の同和問題啓発強調月間及び12月の人権週間に、街頭啓発活動を実施しました。</li> <li>・人権擁護委員が実施する「人権なんでも相談」、「人権の花運動」を支援しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この事業の指標として、まちづくり市民アンケートにおいて、「差別や偏見がないと思う市民の割合」がR2年度の38.5%から1.5ポイント減少しました。</li> <li>・「なんでも相談」での人権相談件数はコロナ禍において減少傾向にあります。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも、柳川人権擁護委員協議会や久留米人権啓発活動ネットワーク協議会、県の機関等とさらなる連携を図りながら、「なんでも相談」の開催を広く周知するなど、人権擁護の取組みを推進し、差別や偏見のない社会を目指します。</li> </ul>		

5	事業名	男女共同参画に関する意識啓発事業	決算額	-
	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画に関する記事などを広報おおむたやホームページへ掲載するとともに、内閣府のポスター・チラシの設置やFMたんとう等メディアを通して周知・啓発などに取り組みました。また、大牟田地区の企業が集まる人権研修会等の機会を利用して啓発を行いました。</li> <li>・男女共同参画推進事業LGBTに関する講演会を開催し学習機会の提供を行いました。</li> <li>・男女共同参画センター情報誌(3月発行)に、事業報告や男女共同参画に関する様々な記事を掲載しました。</li> </ul>		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標実績値は13.3%で、R2年度12.6%から0.7ポイント増加しました。しかし目標値には届いていないため、事業の推進状況を把握し、全庁的な調整を図るなどして、第3次おおむた男女共同参画プランに掲げる施策の計画的な実施が求められます。</li> </ul>		
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報おおむた、ホームページへの掲載、公共施設等へのポスター・チラシの設置の他、SNSを活用するなど積極的に啓発を行います。</li> <li>・男女共同参画に関する知識や理解を深めるため、第3次おおむた男女共同参画プランに基づき、学習機会を提供します。</li> </ul>		

## 【決算額】政策経費事業…金額掲載(千円単位)、事務事業経費事業…-

事業名	女性に対する暴力防止及び被害者支援事業	決算額	—
6	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「女性に対する暴力をなくす運動」(内閣府:11月12日~25日)にあわせ、広報おおむた(11月1日号)にDV防止に関する記事を掲載、パープルツリーを市役所及び中央地区公民館に設置、初めての市庁舎のパープル・ライトアップを行うなど、周知・啓発に取り組みました。</li> <li>・相談窓口や支援機関等について、広報おおむた、ホームページや大牟田市男女共同参画センター情報誌「レインボー」(R4年3月発行)に掲載、商業施設及び公共施設にDV情報カードやDV情報ポスターを設置するなど周知・啓発を行いました。</li> <li>・女性相談員の資質向上のため各種研修(オンライン)を受講しました。</li> <li>・R3年度のDV相談件数は、58件でした。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DV相談者の相談は、子どもや高齢女性を含む複雑な事案が増えており、県、市などの関係機関との連携強化が必要です。</li> </ul>	
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の人権について理解を深めるため、広報おおむた、ホームページなどへの女性に対する暴力防止に関する記事の掲載、商業施設や公共施設などへ相談窓口のポスター・カードを設置するなど継続して周知・啓発に取り組みます。</li> <li>・関係機関等と連携し、相談窓口の周知を行うとともに、相談機能の充実を図り、被害者の態様に応じた支援や自立に向けた情報等の提供を行います。</li> </ul>	

事業名	女性参画促進事業	決算額	—
7	事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の社会参画やワーク・ライフ・バランス等について、広報おおむたやホームページ、センター情報誌への掲載、公共施設等へのポスター・チラシの設置、SNSを活用するなど意識啓発を行いました。</li> <li>・女性のエンパワーメント(力をつけること)のため、県等の開催する研修会(オンライン開催)の情報や、各種講演会等学習機会の情報提供を行いました。</li> <li>・市民に「女性人材リスト」への登録募集を行うとともに、女性団体等へ人材の推薦を働きかけました。</li> <li>・各所管課の審議会等委員選任の際には、要綱に定めた登用条件の緩和など柔軟な運用をとおして、登用率向上に取り組みました。</li> <li>・女性人材リスト登録者は、新規登録者が5人で合計36名となり、その登録者から延べ22名の方が審議会委員へと登用されました。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会委員の登用では、人材リスト登録者の中から新たな審議会委員の選任につなげていく必要があるため、各所管課へ人材リストの活用を働きかけます。</li> </ul>	
	今後の方向性(具体策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性人材リストへの登録者募集については、広報おおむた、ホームページへの掲載、公共施設へのポスター等の設置を行い、女性団体等へ人材の推薦を働きかけます。</li> <li>・各所管課の審議会等委員選任の際には「女性人材リスト」の活用を働きかけます。</li> </ul>	

# 評価・検証シート【事業】

## 6. 重点事業

事業名		人権・同和問題啓発推進事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
人権イベントにおいて初めて参加した人の割合	目標値(%)	41.0	41.0	41.0	41.0	人権フェスティバル初参加者の割合を、過去5年間の平均(40.7%)より、常に上回るようにします。
	実績値(%)	42.3	49.6			
	達成度(%)	103.2	121.0			
<b>事業の実施状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大牟田市人権・同和問題啓発推進協議会等との共催により、12月の人権週間に合わせて「知っていますかハンセン病」をテーマに、人権フェスティバルを開催しました。第1部では、講師に作家・歌手のドリアン助川さんをお招きして「私たちはなぜ生まれてきたのか?小説『あん』でハンセン病快復者の人生を描いた意味」と題した講演会を実施しました。第2部では、ハンセン病の元患者と中年のどらやき職人の交わりを描いた映画「あん」の上演を行いました。参加者は400人(前年度350人)で、初参加者の割合は49.6%(前年度42.3%)と、目標値の41.0%を上回りました。</li> <li>・人権擁護委員や市内にある県の機関と連携し、7月の福岡県同和問題啓発強調月間と12月の人権週間において街頭啓発を行い、人権・同和問題等に関する啓発活動に取り組みました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	1,046 千円		490			556
(次年度への繰越)						
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権フェスティバルは、メインとなる講演者及び講演のテーマにより参加者の年齢層・参加人数に大きな変動が生じます。R3年度は、講師の知名度とともに講師の人権啓発活動が多くの方からの共感を呼んだこともあり、目標値を達成しましたが、今後も市民の人権・同和問題に対する理解と認識を深めるためのきっかけ作りとなるよう、新たに興味を持って初めて参加する方を増やすための取組みが必要です。</li> </ul>						
<b>今後の方向性(具体策)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も市民の人権問題に対する理解と認識を深めるため、人権フェスティバルの開催日、開催時間、プログラム内容等に工夫を加え、取り組みます。</li> <li>・今後も人権擁護委員や関係機関等と連携し、人権・同和問題に関する啓発活動に取り組みます。</li> </ul>						

事業名		人権・同和教育推進事業				
指標名		R2	R3	R4	R5	指標・目標値設定の根拠
人権尊重意識の醸成度	目標値(%)	100	100	100	100	諸事業の参加者アンケートで、開催テーマに対する理解及び認識が「深まった」「概ね深まった」と全ての人に回答していただくことを目指します。
	実績値(%)	93.4	93.1			
	達成度(%)	93.4	93.1			
<b>事業の実施状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡県同和問題啓発強調月間(7月)にあわせて、人権・同和教育講演会を開催しました。114人の参加があり、人権尊重意識の醸成度は97.4%でした。</li> <li>・1月~2月にかけて、市内4会場において、人権学習会を開催する予定でしたが、新型コロナの感染拡大防止のため中止しました。</li> </ul>						
<b>決算</b>		国	県	起債	その他	一般財源
決算額	319 千円		137			182
(次年度への繰越)						
<b>課題</b> <p>7月に開催した人権・同和教育講演会におけるアンケート結果では、若年層(10歳代~30歳代)の参加者の割合が11.26%と低い率になっています。このため、講演会等に若年層の参加者を増やすことが課題です。</p>						
<b>今後の方向性(具体策)</b> <p>諸事業を開催するにあたっては、開催テーマに対する理解や認識を深めてもらうとともに、若年層を含めた幅広い市民の参加が得られるように企画、周知することも重要です。このことから、周知方法についても、広報おむたやホームページ、FM たんと、SNS等を活用し、広く周知、啓発していきます。</p>						